

官報掲載
通商公報
新聞掲載



文書課長
大正六年十一月二日接受

大正六年十一月二日起草
同 年 月 日 附

別紙

通商送第九二九號

主任

通商局長

主管

山田陸軍少佐
藤内少佐
中村銑造少佐
次 田中少佐
若宮少佐
杉本少佐
長 田中少佐
長 杉本少佐
長 若宮少佐
長 山田少佐

米忌鉄材着出特許ノ

更新方ニ関スル件

大正八年七月二十一日
外務省第一課

外務省

事件ノ関シ今般在米忌藤少佐
ヨリ別命字ノ通奉電有之付
右為及々々々々々々々々々々々々々々々

別紙佐藤少佐奉電示四七一号
（植第急給字ノ奉電五三三号）
（字房付ノ）
（訂正ノ先分ノ）

後附
藤原伊左
藤原伊左

米回船物鉄筋(作通報先)

三菱長崎造船所
 三菱神戸造船所
 川崎造船所
 大阪鉄工場
 浅野造船所
 浦賀船渠株式会社
 播磨造船所
 小野鉄工造船所
 原田高工造船部
 横濱船渠株式会社
 函館船渠株式会社
 鳥羽造船所
 三原造船鉄工所

長崎市龍浦町
 神戸市知田崎町
 神戸市東川崎町二丁目
 大阪市西区勝島
 神奈川縣橘樹郡町田村
 浦賀市船渠有造子三
 兵庫縣赤穂郡相生町
 大阪市西区中口町
 大阪市南区水津川町三丁目
 横濱市入船町
 函館市弁天町
 三重縣志摩郡鳥羽町
 大阪市南区水津川町

深川造船所
 横濱鉄工所
 相澤造船所
 水津川造船所
 大原造船所
 新造造船所
 大阪鉄工造船所
 原造船所
 杉田造船所
 藤永田造船所
 栃木造船所
 新潟鉄工所
 吉浦造船所

福岡縣三潁郡大川町
 横濱市山下町
 大阪市西区石田町
 大阪府西成郡津守村
 大阪市西区三軒家下町
 西區泉尾町七二一
 西區新炭屋町
 西區今亦町
 西區新炭屋町
 福岡縣八幡郡尾倉
 新造有造子三五
 廣島縣安藝郡吉浦村

名村造組所

久原鑄業株式会社東京事務所

神戸棧橋難波島工場

名川島造組所

備後組渠會社

鈴木商店代表者 長崎英造

三井物産株式会社

高田商會

大倉組

日本工業俱樂部

淺野合資會社

増田合名會社

内田商事會社

大阪市西區今木町

京橋區麩町三丁目

大阪市西區難波島

京橋區細島五丁目

房島影調郡三庄村

小石川區原町一丁目

日本橋區駿河町

麩町區永楽町

京橋區銀座

麩町區有楽町三丁目帝國鐵道協會

日本橋區通一丁目一四

横濱市本町四丁目

麩町區有楽町

東京商業會議所人會頭 藤田西六

神戸 田村新吉

大阪 年西利全

京都 濱田光雄

東京實業組合聯合會々頭 星野 錫

日本貿易協會副會頭 池田謙三

神戸貿易同業組合但長赤林田金藏

岩井商店東京支店 京橋區柳町

米井 商店 銀座市本町二丁目

杉昌洋行 麩町區有楽町一丁目

三菱合資會社 八重洲町一丁目

湯川竹之助東京支店 日本橋區本町四丁目

東京佛城金物商組合 京橋區有楽町一丁目

(又印ハ、通商局長)

(三)

品名

田代石

官報掲載

通商公報

新聞掲載

一 本局局長 大正六年十月一日

本野外務大臣

左末

植原總理事

佐藤大使

第五号

在米本使兼本館電報局事務

外務大臣大轉電

本使兼本館電報局事務

省地(新時通商取締局) 鐵材

之請者(新時通商取締局) 鐵材

新(新時通商取締局) 鐵材

日下
ル本邦向鉄材中既ニ船積港ニ到着シ若クハ其ノ途中、アルモノニシテ本年十月十五日
日前、製造所ヨリ積出サレタルモノニ
関シテ、以前ノ當事者カ曰特許番
號其ノ他ノ要目ヲ明記シテ電報又ハ
書面協同局ニ申請スルトキハ曰特許
ヲ更新スル方針ニ最近決定シタル事ナリ

大正六年十一月三日 ()



外務省
通商御局 中



東京市京橋區銀座二丁目拾貳番地

米井商店本店

電話號碼 六三六番一六三九番、二七五二番

一米國鐵材輸出特許の更新方に關する件

拜啓右に關して今回在米佐藤大使より入電の趣通合送第九二五號を以て御通知被下敬承仕候毎度御手数相煩候段奉謝候不取敢御禮迄如此御座候 敬具

Y. S. Form No. 2

3-1074

0295

電信課長

大臣

次官

本野

一四八

華府條
本府者 查其年十月 留后三四七

本野外務大臣

佐藤大使

第四八四號

政務

人事

會計

文書

參政官

副參政官

36

任電第百四十七號ニ關シ、ゴコーニツク氏帰期
不明、多ク三日其ノ代理者ニ面會シ、貴電第百三
八四號、御趣旨ヲ敷衍説述シ、若シ我カ最
後ノ提案ヲ容シシカレハ、已カラ得ル支拂ヲ
打切ル、外ナキ旨ヲモ述ヘ、切ニ其ノ再考ヲ
促シ、ハ所相當印象ヲ与ヘ、ハモ、ノ如ク御
稟意ハ深ク諒承セシ、免モ角日本、造船所
社運進云

大正八年七月拾壹日記録第二部接受

ヲ利用セリハ、聯合國全體、不利ナレニ付
早速國務長官及船舶局長トモ、照議リ、蒙
見上何カ義回答致スレト約シタリ

文書課長

大正六年七月五日 接受外



大正六年十一月五日 起草
大正九年七月九日 日號

別紙

陸海軍部 第四二七號

大正六年七月五日 主任

注管 通商局

代

本野大臣

大急 機密

即初抄送

田浦信大臣宛

大正八年七月拾壹日記録第一 部接獲

米國鉄材林平輸交渉ニ関スル件

本件ニ関シ十一月一日付通機密送才四二三号

ヲ以テ申准置候事今般在米佐第大使ヨリ

別我字ノ通ルマツヨクノ民代理ト會見ノ
結果ニ関シ電報有之候ニ付委細右ニ就キ御
知相成度比改申進候也

別我佐為大使來電中四八号訂正ノ分

寫添付ノ事

華曆庚午年十月
本野外務大臣
佐藤大使

新電報中ニテハ、^{同前}關シ、^{同前}マコーリック氏歸期

不明多ク、^{同前}代理有ニ面會、^{同前}貴館重
小中事ノ御趣旨ヲ敷衍説述ニ若シ我カ最
後ノ提案ヲ容シ、^{同前}カレハ已マツ得ル支障ヲ
打切ル、外ナキト旨ヲモ述、^{同前}其ノ再考ヲ
促シ、^{同前}所相當向象ヲ与ヘ、^{同前}モ、^{同前}ノ如ク御
稟意ハ、^{同前}深ク諒承セリ、^{同前}免モ角、^{同前}日本ノ造船所

大正八年十月拾壹日記録第二部接獲

ヲ利用セリ、^{同前}聯合國全体ノ不利ナク、^{同前}付
早速國務長官及船舶局長トモ懸議リ、^{同前}遂
之上、^{同前}所不義、^{同前}回答致ス、^{同前}ト約シ、^{同前}ナリ

電信課長

大臣
次官

第百五十二号
本野外務大臣 依藤大使

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

37
鐵道局作二局檢査一記録第一二部接獲

極速進

往電第百七十三号、同日國務長官、
而會、即、鐵道問題、該及之、處用官、
支問題其他、并、兩國間ノ協定満足、
成主せん今日鐵道問題ヲ解決シ生々ナルハ
自今、決シテ遺城、感シ度ク、次、并、付
吉向者、萬ト相談ニ置ク、レトノコトナ
リ、九日請、依リ、マコトニツク、氏代理

者、而、會、せん、處、吉、方、ヨリ、懇、談、付
更、之、再、考、シ、更、ノ、上、左、ノ、通、提、議、ス、ハ、十

吉、甲、出、ス、リ

(一) 日本一十五万噸重量噸以下用レ、期
當、之、し、船、舶、ヲ、東、國、ノ、賣、渡、レ、明、年、一、月
ニ、可、ト、是、レ、東、國、ノ、引、渡、ス、コト、但、し、左、船
船、ノ、年、齡、七、年、以、下、五、千、噸、以、上、十、噸、以
上、十、コト、ト、要、ス、尤、質、量、ノ、良、好、ナル
船、舶、ヲ、十、年、年、齡、ノ、点、ノ、多、少、讓、步、ス
ハ、十、七、年、以、上、ノ、人、不、可、ナ、リ、之、船、舶

價格ハ一噸百七十円トシ過吉ノ檢
 査ノ終引渡完了後仕掛コヽレ
 (二) 日本ヨリ高前社ノ要目ニ該吉スル
 新造船舶千噸ヲ賣渡シ明年八月
 一日迄ノ東回ノ旅ヲ引渡スコト此等
 船舶ハ一噸二百円ノ仕掛コヽレ
 (三) 大代價トシテ戰時通商條約日本向
 造船材料ヲ運輸出許可ヲ與フヽレ
 十一月申、二万五千噸、十二月申、五万
 噸、明年八月申迄、十萬噸

但シ右材料ニ從來日本ト契約済トシ
 レルモノハ限り其ノ許可範圍ハ左ノ
 如クナリヽレ
 (一) 製造完成ノ上既ニ積出於、到着
 仕度ノ
 (二) 製造完成トシテ同下製造所、在
 ルカ又ハ積出於、輸送中ノモノ
 而シテ日本船舶引渡期ノ早ヨリヽレ、
 於テ、其ノ比例、ニ鋼材一噸ト船舶二
 噸ノ基礎、於テ鋼材輸出許可額ヲ

早んこト、スレ又右輸出許可スレ
材料ハ契約内ヨリ引出サレ、コト
絶対ニ必要ニシテ末回ハ於テ新々之
ハ振向ト得、中余地ナレト
右、日本使ハ年齢制限ノ点並材料ヲ
契約内ヨリ引出サレ得ル点
等ハ先般未申述、タレ、廻日本ノ最困
難トスル所ニシテ價格ノ点ハ今回始メ
ニ商議、上リタレ、是亦容易、應レ
難キモ許シテ貴方ノ提議ハ形式、於

テ大分我提議、則、レタレ、諒トスル
ニ事実上ハ後多大ノ困難ヲ伴ヒ日本
ハ於テ承諾シ難カハ、ニ元來自分ノ意
ヲ以テ訓令ハ我最後ノ提議ハ果善ク
令レタレ、レタレ、以テ之ヲ應答セラレ、
様再考ヲ求ムル、アリ、日本ニ、一、既、
万一ノ慮リ種々ノ準備ヲナシ、
如ク有様、レタレ、以テ今回ノ提議ヲ取次
ク、ハ躊躇スル中、弟、レタレ、折角ノ事ナ
ル、付更、我政府、稟報ニ其考量

ヲホカハシト述ニクシ、處先般ハ日本、多
クノ困難アルハ察セザル、アノ其ニ末(脱)
ノ立場ヨリスレハ此ノ提議ハ大ニ日本ノ
事情ヲ考慮シタシモノナレハ何トカ
此ノ外ニシテ終ニリテ何レニシテモ吾方
ニシテ常ニ好意ヲ以テ所来意ニ應スル
積ナルヲ辭トセリト述、庄ナリ本
件ハ今回始メニ國務長官、英ニ熱心ニ
仲介シ来リタル次第ニアル、付右提議
ニ對スル回答振興論議トシテ急ニ

回電アリス

高太會談ノ序、日本、英ニ聯合國ノ為
ニ建造中ノ船舶若干アル處右ノ要ニ
ニ材料ニシテ同下輸出許可申請中
ノモノハ如何取計スルハナリト問ナリ
ニ右ハ後令聯合國ノ為ナリト直ニ之
ヲ許可シ難シ何レ本件法是後更ニ別
ノ問題トシテ高議致スナリト答
ハナリ

文書課長

大正六年七月十二日 接

96

大正 六年 七月 十二日 起草
同 今年 八月 十日 附

別紙

機密

逕 送 第四四二號

大正六年七月十二日 主任

通商局長
主管

田 通信大臣宛 本野大臣

大正八年一月拾壹日記録第二部接受

米石鉄材禁輸交渉ニ

関スル件

外務省

要再回

即判共天

本件ニ関シ 七月五日附通機密送
第四二七号ヲ以テ申進 並ニ其
才有之矣 爲今般在米估後
大使ヨリ 別紙 呈通 了 米電有
之矣ニ付 委曲 右ニ 就キ 以 兼 悉
以 診 候 上 何 人 義 以 回 報 候 成
成 此 段 申 進 矣 也

（在米大使 米電 申進 了。 只、パラフレ、ス
ニ、ル、各、分、早、報、知、候、下、



秘

本野外務大臣 伏見大使

本野外務大臣 伏見大使

前電 十月 閣下 國務長官

面會ノ節 鐵問題、談及 處 同 長
支問題其他、自 兩國間ノ協定満足
成立セル今日 鐵問題 解決 法ヲ生ケサレハ
自今之 決テ之 遺城、感シ度シ 決テ 弟 會
吉向者、萬ト相談シ置テ、ハレトノコトナ
リシカ九日 請、依リ、マコリニツク、氏代理

大正八年八月拾日 記録第二部 變

者、面會セル 處 吉方ヨリノ 懇談、自
更、再考シ更ノ、左ノ 通提議ス、ハ十
吉甲出タリ

(一) 日本 十五万噸 (重量噸以下同レ)、相
當スル 船舶 日下ヨリ 東國、賣渡レ明年一月
二十日迄、東國、引渡スコト但シ 太船
船ハ 年齡七年以上、五十年以上、十噸以
上ナルコトヲ要スル 實情 好ナル
船 年齡ノ点、多少 讓歩ス
ハ、七十一年以上、スル 不可ナリ 太船舶

價格一噸百七十円トシ通商、檢
 査ノ終リ渡完了後仕掛、ハレ
 (二) 高前記ノ要同、該吉、
 新造船噸百噸、(日本) 明年八月
 一日迄、東回、於引渡ソフト此等
 船舶、(日本) 噸二百噸、仕掛、ハレ
 (三) 右代價、ハレ、戰時通商條約日本向
 造船材料、通輸出許可、由、ハレ
 十一月、二万五千噸、十二月、二万
 噸、明年八月中迄、一千万噸

但、右材料、従来日本、契約済、
 ンモノ、限リ其ノ許可、範圍、左ノ
 如ク、ハレ
 (一) 製造完成、上既、精出迄、到着
 (二) 製造完成、上既、精出迄、到着
 (三) 製造完成、上既、精出迄、到着
 (四) 製造完成、上既、精出迄、到着
 而、日本、船舶、引渡、早、
 於、其ノ比例、鉄材、噸、船舶、
 噸、基礎、於、鉄材、輸出、許可、期、
 在、
 而、日本、船舶、引渡、早、
 於、其ノ比例、鉄材、噸、船舶、
 噸、基礎、於、鉄材、輸出、許可、期、
 在、

早ムルコト、スヘレ又右輸出許可スヘキ
材料ハ契約済ノ内ヨリ引出サシ、コト
絶対ニ必要ニシテ未ダ、於テ新シ之
、振向ト得、ナ余地ナレト

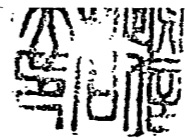
右、自本使ハ年輪制限ノ点並材料ヲ
契約済ノ内ヨリ引出サシノ得ル点
等ハ先般未申述、タシ、廻日本ノ最^モ固
難トスル所ニシテ價格ノ点、今回始メ
ニ高議、上リタル、是亦容易、應レ
難^ク也 行ヒタル貴方ノ提議ハ形式、於

テ大分我提議ニ別ラレタルヲ諒トスル
ニ事實ト云散多大ノ困難ヲ伴ハル本
、於テ取談レ難カルヘシ元來自今ノ意
トタル訓令ハ^{帝^ノ御旨}提議ハ果^シテ
今レタルモノシテ以テ之ヲ應^レ談セム、
^{米^ノ政府}様^ノ御考^ヲ求ムルニアリテ日本ニテハ既、
万一ノ慮リ種々ノ準備ヲナレ居ルカ
如ク有様ナシ、以テ今回ノ提議ヲ取次
クニテ躊躇スル次第ナシト折角ノ事ナ
ル、自使、我政府、稟^テ報^ス其^ノ考^量

ヨホレハト述、もし優先^方日本、多
少ノ困難アルハ察セザレ、アルカニ未^國(脱)
ノ立場ヨリスレハ此ノ提議ハ大、日本ノ
事情ヲ之^對酌シタシモノナレハ何トカ
此ノ外、^ノ經^ノハ^ナク何レモ^ノモ^カ方
、^ノ常、好意ヲ以テ所来意、應ル
續^ナル^ハ詳ト^セル^ト述、^ハ本
件ハ^ノ由^ル始^メ、^ノ回^答長^官、^ハ熱^心
付^テ介^シ末^リタ^ル次^第モ^{アル}、^ハ付^テ大^提議
、^ハ并^スル^レ回^答振^興論^議、^ハ主^意所

回電 ^ヲ送^ル

高太會談ノ序、^ハ本^邦聯^合國^ノ為
、^ハ建^設中^ノ船^舶及^テ干^貨、^ハ要^ス
、^ハ材^料ニ^シテ^ハ同^下輸^出許^可申^請中^ニ
、^ハモ^ノハ^ハ如^何取^計ス^ルハ^トヤ^ト申^上ル^ニ
、^ハ本^邦後^合聯^合國^ノ為^ルト^シテ^ハ自^己之^ノ
、^ハ許^可シ^難シ^ニ、^ハ本^件決^定後^更、^ハ別^箇
、^ハ問^題ト^シテ^ハ高^議故^ク、^ハ精^了ト^シテ^ハ各



秘12393番

大正六年十一月十五日接受通第二課

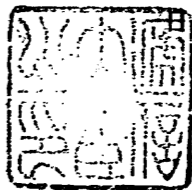
戰船第二九一號

大正六年十一月十四日

遞信大臣男爵田健治郎

外務大臣子爵本野一郎殿

米國鐵材禁輸交渉ニ關スル件



遞信省

本件ニ關シ十一月十二日付通機密送第四四二號ヲ以テ在米佐藤大使ヨリ
ノ電報ヲ添ヘ申越ノ趣了承本件ニ付我帝國政府ハ聯合國援助ノ趣旨ヲ以
テ繰合セ得ル最高限度ヲ提議シタル次第ハ豫テ敷次及御打合候通りニ有
之候處今回米國ヨリ申出ニ係ル提議ハ我ヨリ供給スヘキ船舶及彼ヨリ供
給スヘキ造船材料ノ數量ハ帝國政府ノ提議ニ一致スルモ其條件即チ船舶
及材料ノ引渡期限、船齡及船舶價格ノ制限並材料ヲ我民間ヨリ注文契約
済ニ係レルモノニ限レルコト等ハ帝國ノ實狀ニ照シ總テ實行不可能ニシ

大正八年十一月十一日記録第二部接受

遞信省

テ斯カル條件ニテハ到底應諾難致ニ付去ル八月十五日附秘管第二七九號
照會ニ起原スル米國ヨリ別ニ造船材料ノ供給ヲ受ケ之ヲ以テ帝國ニ於テ
船舶ヲ急造シ米國ヘ供與スルコトニ關スル對米交渉ハ此際斷念スルノ外
ナク乍遺憾撥難回致度候條右ニ了知相成度此上ハ鐵材ニ關スル對米交渉
ハ我民間ヨリ米國民間ニ對シ注文契約済ニ係ル造船材料解禁ノ件ヲ殘ス
ノミト相成候間此義ニ付可成我民間ノ希望ヲ達スル様御配慮相煩度此段
及回答候也

外務省

第2394號

戰船第二九二號

大正六年十一月十四日

大正六年十二月十五日接受通第二課

遞信省

遞信大臣男爵田健治郎

外務大臣子爵本野一郎殿

米國鐵材禁輸交渉ニ關スル件



本件ニ關シ本日付戰船第二九一號ヲ以テ及回答置候處米國ヨリ提議ニ係ル
條件ノ不可能ニシテ應諾致シ難キ理由別記ノ通りニ有之候條御含迄ニ申進
候

別記

我提按ニ對シ今回十一月十一日附ヲ以テ在米佐藤大使ヨリ報告アリタル米
國政府ノ對按ヲ審查スルニ我ヨリ供與スヘキ現存船及新造船ノ數量並彼ヨ
リ供給ヲ受クヘキ材量ノ數量ニ付テハ我提議ニ一致セルモ船舶及材料ノ引
大正八年七月十一日 遞信省第二部接受

遞信省

渡期限、船齡、船艙、價格ノ制限並材料ヲ我民間ヨリ注文契約濟ニ係レル
モノニ限レルコト等ハ我國ノ實狀ニ照シ實行不可能ニシテ該對按ハ到底我
ノ堪ユル能ハサル所ナリト認ム其概要左ノ如シ
一、現存船ノ引渡期限ニ關スル件

米國ハ現存船十五萬噸ヲ來年一月二十日迄ニ引渡スコトヲ求ムルモ本件
交渉遷延シタル今日ニ於テハ假リニ今月末日迄ニ諸般ノ交渉結了スヘシ
トスルモ來年一月二十日迄ニ本邦ヲ出帆セシムルコト甚々困難ナルヘ
ク右期日迄ニ米國ニ到着セシムル趣旨ナリトセハ殆ント不可能ト云ハ
ルヘカラス

二、現存船ノ船齡等ニ關スル件
米國ハ我ヨリ供給スヘキ現存船資格ニ付船齡七年未滿（實質良好ナル船

遞
信
省

船ニ限リ十年未滿ノ噸數五千噸以上速力十節以上ト限定セルカ噸數及速力ニ付テハ若干ノ例外ヲ除キ大体可能的ナルモ船齡ノ點ニ至リテハ我海外定期航路ニ從事セル優等船ヲ提供スルニアラサレハ此ノ條件ニ適合シ難ク此ノ如キハ實ニ我海運組織ヲ根底ヨリ破壊スルコトナリ到底不能事ニ屬セリ

三、新造船ノ引渡期限及材料ニ關スル件

米國ハ噸數五千噸以上速力十節以上ノ新造船二十萬噸ヲ來年八月一日迄ニ引渡スコトヲ求ムルモ米國ヨリ供給セントスル材料ニ付テハ本年十一月中ニ二萬五千噸十二月中心五萬噸來年八月中迄二十萬噸ヲ我民間注文契約濟ニ係レルモノ、中ヨリ輸出禁止解除ヲ爲サントスルニ在リテ此ノ如キハ目下製造中又ハ製造計劃中ノ船舶ノ補充材料ノ供給ヲ意味シ之ニ

遞
信
省

依ル船舶ノ製造ハ當然各造船所既定ノ計劃ト順序トニ從ハサルヘカラサルニ依リ一定船型ノ船舶ヲ統一のニ急造スルコト不可能ニシテ從テ我政府ニ於テ計劃セル如ク一定期間内ニ一定數量ヲ竣工セシムル望ナク前掲期間内ニ二十萬噸ヲ製造スルハ不可能ナリ尙米國ノ申出ニ依ル材料ノ供給期限夫レ自身ニ付テモ我提案ニ比シ大ニ遅レ從テ我一般造船計劃ヲ甚タ遅延セシムル關係ニ在ルモノナレトモ米國ノ供給セントスル材料ハ前掲ノ如ク我民間ノ注文品ナル點ニ於テ我政府ノ提案ト全然性質ヲ異ニスルカ故ニ茲ニ改メテ論及スルニ及ハサルヘシ

四、船舶ノ價格等ニ關スル件

米國ハ現存船ノ代價一噸ニ付百七十弗トシ適當ノ検査ヲ經テ引渡完了後支拂ヲ爲スヘシト主張セルモ假ニ船齡ハ無制限トスルモ此價格ニテハ到

遞
信
省

底同意シ難シ（中古船ノ我時價ハ目下約六百圓乃至七百圓見當ナリ）尙
ホ米國ニ廻著後検査ヲ經テ引取ルヘキ趣旨ナリトセハ若シ不合格船ヲ生
シタル場合ハ甚シキ困難ヲ生スヘク到底我ノ忍フ能ハサル所ナリ米國ハ
新造船ノ代價一噸ニ付二百弗ト爲セルモ米國ヨリ我ニ供給スル材料ハ我
民間ヨリ注文濟ニ係レルモノニシテ其ノ一部ハ既ニ代金支拂濟ノモノモ
アリテ此等材料ノ代價ハ恐ラクハ注文契約ニ依ルノ意ナルヘク右代價ハ
非常ニ不廉ナルモノヲ含メルカ故ニ高價ノ材料ヲ以テ製造スル船舶ノ價
格ヲ二百弗ト限定スルハ不當ニシテ實行シ得ヘキニアラス假リニ今回米
國ヨリ供給セントスル材料ハ米國政府徵用價格ニ準シ廉價ナルモノト假
定スルモ之ヲ以テ己ニ一部高價ナル材料ヲ使用シ製造中又ハ製造計劃中
ニ屬スル船舶ノ補充材料ニ充テ竣工セシメタル船舶ハ到底廉價ヲ以テ之

遞
信
省

ヲ引渡スコトヲ得サルヘシ加之右船舶^中ニハ一部造船所ニ於テ仕入計劃ニ
屬スルモノノ外夫々製造注文者アリ或ハ注文者ノ移動モアルヘク相當高
價ヲ以テ轉賣セルモノモアリテ此ノ如キモノハ廉價ヲ以テ買上ルコト絶
對不可能事ナリ

38

電信案 (暗)

大臣 在米 次官 上

大正 六年 正月 十五日 起草

送第 號

主任

主管 逓信局長

在米 本野大臣 佐友大使宛

大正八年二月拾壹日記録第二部接受

第 五 〇 〇 号 至 急

貴電第五〇〇号ニ答シ

外務省

帝不政府ハ聯合名援助ノ急ニ
 應スル爲メ叙力堪ヘ得ル最大
 ノ限初ニ於テ本件提案亦ヲ爲
 シタルモノニシテ其ノ最終ノ決定
 ナルコトハ累々ニ電報ノ通リナルガ
 今次提出ニ係ル米名政府ノ對
 案ニ對シテモ特ニ互讓ノ精神
 ヲ以テ更ニ慎重考量ヲ加ヘタル

電報課長 代
 馬 上 日 志 〇

電送第六二五三號
 六年正月十五日 時 發

露右對案ハ彼我互ニ供給スル
船舶及造船材料、數量ニ於
テ我提案亦ニ一致スルモ船舶
及材料、引換期限、造船費
及船舶價格、制限並ニ材料
ヲ我民爲往來契約物品ニ
限レルト等、條件ハ帝名現
下ノ實情ニ照シ爲テ実行不

可能ニシテ百方工夫ヲ凝スル
極條件ヲ以テシテハ到底應
ノ餘地ナシトノ決定ヲ見ルニ至
レリ(別電弁ハニニ号參照)依
テ往電弁三六〇号所載ノ意
ト旨ヲ以テセル對米交渉ハ帝
政府ニ於テ乍遺憾此際之
ヲ斷念ス(シ)

就テハ貴官ハ特ニ石務長官
ニ面会シ右ノ趣旨ヲ可成形
式ノ書面ニ認メ之ヲ手交セラ
ルルト同時ニ帝ニ政府ニ於テハ
米ニ政府ノ船舶ヲ必要トセラ
ルル事情ハ十分ニ諒察スル所
ナルヲ以テ出来得ル限り其希
望ニ応フ様面方研究考査
ヲ遂ケタルモ何人ニモお電話
ノ通りノ事由ニテ實際上如何
共致方ナキ実情ヲ口頭ヲ以テ
詳説セラレ先方ヲシテ帝ニ故
府カ今回本件交渉ヲ断念
スルニ至リタルハ美已ムヲ得サ
ルニ基テモナルコトヲ十分
得セシメ居る何等誤解又ハ

意感ヲ生セシメサル様特ニ以テ慮
アリタシ

將又右ハ前述ノ通り往電中
三六。号。帝名政府ノ提議ノ
ニ突スルモノニテ我カ民ガヨリ
米石ハ往文單契約情ニ係ル
造船材料解禁問題ハ本件
トハ別個ノ問題トシテ依後

外務省

存積シ米名政府ノ好意アル考
量ヲ求ムルノ必要アルモノナルコ
トハ以テ合意アリタシ

電信課長代
電報課長

大正六年十一月十五日起草
同 年 月 日 附

送第 號

主任

大臣
次官
古野

郵政局長

本野方長

在米

依藤方使宛

大正八年二月拾壹日記錄第二部接受

力以云云 号 別電至急

米國對案の船
米國對案の船
米國對案の船

外務省

船及造船材料の引渡期限の延滞

造船材料の引渡期限の延滞

造船材料の引渡期限の延滞

造船材料の引渡期限の延滞

造船材料の引渡期限の延滞

造船材料の引渡期限の延滞

造船材料の引渡期限の延滞

造船材料の引渡期限の延滞

電送第 号
古年十一月十五日午後七時十分發

渡ヲ求ケルモ条件交渉ノ遷延シタ
ル今日ニ於テハ飯ニ十日末日迄ト
交渉結了スヘシトスルモ前記期日
迄ニ本邦ヲ出帆セシケルコトスラ甚ク
困難ナルヘク右期日迄ニ米國ニ到
着セシケル趣旨ナリトセハ強^ク難^シト不可
能ナリトス

二船齡、米國ハ船齡七年未滿(實

外務省

質良好ナル船舶ニ限リ十年未滿)
五千噸以上十節以上ノ現存船ノ
引渡ヲ求ケルトコロモ也數及速力ニ
付テハ若干ノ例外ヲ除キ大体
右希望ニ副ヒ得ヘキモ船齡ニ至
リテハ我法外定期航路ニ從事
セル優等船ヲ提供スルニ非サレハ
右様条件ニ適合シ難ク斯ノ如キ

ハ本邦海運組織ヲ根底ヨリ破
壊スルモノニシテ到底実行不可純
ナリト

三、新造船ノ引渡期限及材料、

米國ハ新造船ニ十万吨ヲ来年

八月一日迄ニ引渡スコトヲ求ムルモ

米國ヨリ供給セムトスル造船材

料ニ就テハ我々民間注文契

外務省

約済ニ係ルモノ、中ヨリ若出禁

止ヲ解除セムトスルニアリテ斯ノ如キハ

目下建造中又ハ建造計畫中

ノ船舶ニ対スル補充材料ノ供

給ヲ意味シ之ニ依ル船舶ノ建

造ハ当然各造船所既定ノ計

畫ト順序トニ従ハサルヘカニサレニ

依リ一定船型ノ船舶ヲ統一的ニ

tsuyuki

急造スルコト不可能ニシテ後テ帝國
 政府ノ計畫セル如ク一定期間内
 ニ一定數量ヲ竣工セシムル見込
 無ク前記期間内ニ二十万吨ヲ製
 造スルコト^亦不可能ナリ且米國ノ申
 出ニ係ル材料供給期限自體ニ
 執テモ我提議ニ比シ大ニ遅レ
 徑テ我一般造船計畫ヲ甚シク

外務省

遅延セシム

四. 船舶ノ價格等 米國ハ現存船
 ノ代價一屯百七千弗トシ^{トシ}適当ノ積
 査ヲ經テ引渡完了後支拂ヲ
 為ス^{トシ}ト主張スルモ仮ニ船齡ハ
 無制限トスルモ目下本邦ニ於ケル
 中古船^{ケル}ノ時價約六百田乃至
 七百田見出スル際右様價格ニ

了、到底同意し難し尙ホ米國回
航後ノ検査ニ関シテハ、不合格船ア
ル場合ニハ太シキ困難ヲ生スル
到底忍ラ能ハサル所ナリ

又新造船ノ代價一屯二百弗トセル
ニ米國ヨリ我方ニ供給スル材料
ハ米邦民間ヨリ注文済ノモノニシテ
其一部既ニ代金支拂済ノモノ、

外務省

代價ハ恐ラテ注文契約ニ依ルノ意
ナレキモ右代價ハ極メテ不廉ナル
モノヲ含ク（キカ故ニ斯ル材料ヲ以テ
建造シタル船舶ノ價格ヲ二百弗
ニ限定スルハ當ラ得サルモノナリ）
米國ヨリ供給スル材料ノ米國政
府徵用價格ニ準シ廉價ナルモノ
ト仮定スルモ之ヲ以テ既ニ一部

高價ナル材料ヲ使用シ建造中
又^建造計畫中ニ属スル船舶ノ
補充材料ニ充テ竣エセシメタル
船舶ハ到底廉價ヲ以テ之ヲ引
渡スコトヲ得サルニシ加之斯種
船舶中ニ一部造船所ニ於テ
仕入計畫ニ属スルモノ、外夫々
製造注文者アリ或ハ注文者ノ
移動モアルヘク相当高價ヲ以テ
轉賣セハモノアリテ廉價ヲ以
テ買上クルコト絶対ニ不可能ナリ

外務省

右貴省ノ由会ニテ申上



米鐵交涉打切願末

米國の新提出條件は實行不可能 急需造船材料二萬噸自給調査中

十七日海軍省より公表したる造船材料自給調査の結果、米國の新提出條件は實行不可能と認められた。米國は造船材料の供給を確保するために、我が國に對して二萬噸の造船材料の供給を要求する。我が國は、この要求を認めることは、我が國の造船工業に對して重大な打撃を與へることを恐る。故に、米國の要求を認めることは、實行不可能と認められた。

米國は、造船材料の供給を確保するために、我が國に對して二萬噸の造船材料の供給を要求する。我が國は、この要求を認めることは、我が國の造船工業に對して重大な打撃を與へることを恐る。故に、米國の要求を認めることは、實行不可能と認められた。

米國は、造船材料の供給を確保するために、我が國に對して二萬噸の造船材料の供給を要求する。我が國は、この要求を認めることは、我が國の造船工業に對して重大な打撃を與へることを恐る。故に、米國の要求を認めることは、實行不可能と認められた。

米鐵一部解禁交渉

米鐵一部解禁交渉

我が國は、米鐵の一部を解禁することを、米國に對して交渉中である。米國は、我が國に對して二萬噸の造船材料の供給を要求する。我が國は、この要求を認めることは、我が國の造船工業に對して重大な打撃を與へることを恐る。故に、米國の要求を認めることは、實行不可能と認められた。

我が國は、米鐵の一部を解禁することを、米國に對して交渉中である。米國は、我が國に對して二萬噸の造船材料の供給を要求する。我が國は、この要求を認めることは、我が國の造船工業に對して重大な打撃を與へることを恐る。故に、米國の要求を認めることは、實行不可能と認められた。

我が國は、米鐵の一部を解禁することを、米國に對して交渉中である。米國は、我が國に對して二萬噸の造船材料の供給を要求する。我が國は、この要求を認めることは、我が國の造船工業に對して重大な打撃を與へることを恐る。故に、米國の要求を認めることは、實行不可能と認められた。

米國の附帯條件

米國の附帯條件

米國は、我が國に對して二萬噸の造船材料の供給を要求する。我が國は、この要求を認めることは、我が國の造船工業に對して重大な打撃を與へることを恐る。故に、米國の要求を認めることは、實行不可能と認められた。

米國は、我が國に對して二萬噸の造船材料の供給を要求する。我が國は、この要求を認めることは、我が國の造船工業に對して重大な打撃を與へることを恐る。故に、米國の要求を認めることは、實行不可能と認められた。

米國は、我が國に對して二萬噸の造船材料の供給を要求する。我が國は、この要求を認めることは、我が國の造船工業に對して重大な打撃を與へることを恐る。故に、米國の要求を認めることは、實行不可能と認められた。

造船材料自給調査

造船材料自給調査

我が國は、造船材料の供給を確保するために、造船材料の自給調査を実施した。調査の結果、我が國の造船材料の供給は、米國の要求を認めることは、實行不可能と認められた。

我が國は、造船材料の供給を確保するために、造船材料の自給調査を実施した。調査の結果、我が國の造船材料の供給は、米國の要求を認めることは、實行不可能と認められた。

我が國は、造船材料の供給を確保するために、造船材料の自給調査を実施した。調査の結果、我が國の造船材料の供給は、米國の要求を認めることは、實行不可能と認められた。

依り約六五噸を算したりしが爾後添
 添に於て待許を得たる材料の輸入もあり
 最近の實地調査に依り總噸數千噸以上
 の船中第一類即ち既に艀骨を据へ附
 け工事中にある船に對し約七千五百
 噸の不足材料を補充せば約九十一噸其
 重噸約三十六萬九千噸の船を完成
 せしむるを得第二類即ち長近に艀骨を
 据附くべきものに對し約一萬一千餘噸
 の不足材料を補充せば約五十八噸其重
 噸約二十二萬噸の船を完成せしめ
 得べく則ち第一類及第二類の船を製
 造せんば約四十七萬噸の造船所に於
 ける百四十九隻其重噸約五十九萬噸
 の船に對し約一萬八千餘噸の材料を
 補充するを得ば之を完成し能ふべきを
 以て我製艀所より供給方に付ては目下
 森田務省に於いて熱心調査中なり

電信課長

大臣 次官 部

華府候 大正八年二月十日午前二時

本野外務大臣 佐藤大使

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

39

第五一二號
 在電報部(鐵道省同進米村業)に同様に御回割(積出)の件、内は均輸生許可、順位の對立を考へ、その結果として幾許の数量の積出港に到着し居り、且下内之取調中である、因に聞かざる可、然るに近頃商業者鐵輸出の解禁が見越し、機械的の積出地、其の輸送にとも、既に二十萬噸以上を上り、此の教量にして大臣

大正八年二月拾壹日記錄第二部接受

根本問題解決の曉、右數量の中より如何なるものに對し、順位の輸送許可を要求する中、各法相當困難、問題大なり、且、此の契約に日附、輸送の事實、及日本側の於ける自派必要、積出等ニ依り、豫め一定の標準を立、置、下、然るに、其の爲念

電報
(時)

電送第六一〇七號
大正六年十一月廿一日 十時五分發

電報課長
③

大正六年十一月廿一日 起草
同 年 月 日 附

送第 號

主任

主管 通商局長

本野大臣

在米
佐藤大使宛

大正八年二月拾壹日記録第二部接覽

第四三一號

往電第四二六號參考ノ為ノ在英

外務省

大使一轉電アリタシ

附屬書類添付

大正六年七月廿一日接獲

通第二課



狀造第一號 大正六年十月廿日

通信大臣野村胡堂

外務大臣子爵青木重一

大正八年七月十一日 郵務第二課接獲

米國鐵業協會文書

本件は、米國鐵業協會文書、第四
 五回號より、在米鐵業協會、
 申越、極了、取在、廿日、
 後、置候、極了、取在、廿日、
 實狀、觀、我、航、海、造、船、事、業、
 可、不、安、定、位、置、立、た、る、事、
 ニアラサレ、於、於、於、日、モ、早、ク、方、針、
 其、適、應、ス、ル、所、ヲ、知、ル、コト、
 且、後、時、日、ヲ、經、過、ス、ル、に、於、て、
 實、ヲ、候、傳、ヒ、知、ラ、セ、我、民、
 感、心、ス、ル、コト、ヲ、望、シ、付、
 寫、ノ、通、リ、公、表、シ、タ、ル、
 及、回、答、候、也

逓信省郵務局積紙工場印刷

造船材料ニ関スル封米交渉
顛末概要

聯合興國ニ於テハ豫メ本邦ヨリ船舶
ノ後助ヲ得タキニ希望ヲ有シ我政府モ
亦能ク限リ援助ヲ興フルニ意テルモノニ
アラズ從テ本邦ニ於テ船舶ノ押底ヲ
爲スルコト甚大ナルニ拘ハラズ聯合國ノ

本邦政府ノ一部署

需要ニ應ヒ船舶ヲ譲渡シ又ハ相當分
量ノ本邦船舶ヲ編入スルコトヲ禁止セ
ザリシ次第ナリシカ去ル六月中我同盟國
タル英國ヨリ夫レ以上船舶ノ供與ヲ希
望シ來リ我政府ハ出米得ル限リ之ニ
應シタキ希望ヲ以テ糧々調査スル所アリ

3
此中英國ヨリ造船材料ヲ提供シ我造
船設備ニ利用シニ極力船舶ノ製造ニ促進
シテ以テ援助ニ充テトテ最モ便宜ニシテ且
ク有難ナリトノ議起リ主トシニ此莫ニ付交渉
ヲ進メタリシモ該局ハ月末ニ到リ英國ニ於テ是自
國造船ノ急需ナル事ニ我邦ニ提供スルノ餘
地ナク遂ニ実行スル能ハサルニ至レリ

右英王ト英海軍中尉ニ於テ鋼材煉造船
材料輸出禁止ノ事起リ本邦造船ノ輸入商
ヲ米米船隻所ノ海支那船隻ニ属スル材料ヲ
引取リ得ルニテナリタル以テ船隻既約米四十
餘隻ニ對シテ鋼材輸出禁止ノ事起リ
是ヨリ先我の船隻爲ニ於テ米米船隻ニ於テハ情
勢ニ應ジ深シ注意ヲ加ヘ適當ノ措置ヲ採

ルニ急ヲサリシカハ、^ル陳情ニ據ヒ直々ニ交渉シ、^ル新ノ極力斡旋スル所アリシニ、^ル某子ニ於テ、^ル漢海臨居ニ松橋^上ニ^ル赴ク時、^ル自和ノ司途急ヲ急迫^ルテ先ガ軍ヲ用^ル以テ、^ル純村ニ供流セシ^ル新々事情ニ^ルアヒレテ以テ、^ル吾向キ我既^ル言^ルルニ其獨^ルノ急^ルツ望ムトカ、^ル連送^ルテ、^ル不^ル足^ル杯^ル計^ル給^ル方^ル亦^ル解^ル極^ルテ、^ル交^ル情^ルル^ルモ^ル前^ル同^ル計^ル

此由ヲ以テ、^ル吾^ル意^ルヲ^ル得^ル雖^ル、^ル一月^ルノ^ル日^ル以^ル来^ル、^ル物^ル許^ルシ^ル得^ルシ^ル故^ル、^ル今^ル滿^ル不^ル解^ル決^ルヲ^ル先^ル

ルニ至^ルリテ

右米因ニ對シ、^ル我^ル込^ル苗^ルヨリ、^ル注^ル文^ル故^ル約^ル品^ル解^ル禁^ル方^ルを^ル勝^ルリ^ル前^ル揚^ルノ^ル通^ルリ^ル英^ル國^ルヨリ^ル材^ル料^ル供^ル給^ル送^ル取^ル便^ル直^ルノ^ル計^ル画^ルヲ^ル遂^ル行^ルス^ルル^ルニ^ル由^ルテ、^ル以^ルテ^ル上^ルニ^ル米^ル國^ルヨリ^ル材^ル料^ルヲ^ル得^ルル^ルノ^ル途^ル



講じられタキ旨英國ヨリ申出アリ是ニ於
テ我政府ハ前段ニ掲ケル我民間ノ注文契
約済ニ係レル材料ニ対スル解禁方交
渉トハ全然別個ノ問題トシテ日英交
渉ノ骨子タリシ彼ヨリ一定規準ニ依ル
材料ノ供給ヲ求テ我ニ於テ一定標準ノ
型船ノ製造ヲ促進シ之カ大部分ヲ聯

合國ニ依テスルニトテ提議スルノ可ナル
ヲ認メ約トナリ電ノ材料ヲ得ルハ二年
間ニ總毛數約百二十万噸量也約百八十万
噸ノ船舶ヲ製造シ其ノ一部ハ聯合國ノ
一算トレテ共同ノ資源ト爲メ我國ニ之ヲ
保留シ其ノ大部分ハ之ヲ他國ニ分譲し得
ルキ旨ヲ通告ノ機会ニ於テ英國政府ニ調書
スル指回道ヲ採リタリレカ米國

ニ於テハ聯合策戦上急遽ニ船舶ヲ要ス
スル事情アリ従テ長期ノ造船計画ニ
依ル能ハス多クニ現存船舶ノ供与ヲ
切望セムコト判明セリ是ニ於テ我政
府ニ於テハ聯合軍國援助ニ努ムル
趣旨ヨリシテ出来得ル限りノ豫備ヲ擧
ニ綜合セ得ル最高限度ヲ提出シ本年

内ニ我現存船舶重量噸數約十五万吨
ヲ供給シ之ニ対シ米國ヨリハ本年內ニ造船
船材料十五万吨及東洋中ニ三十万吨
合セテ四十五万吨ヲ我邦ニ供給スルハ我
邦ハ之ニ依テ新造船舶重量噸數約百三十五万
噸製造ノ計画ヲ立テ其内七十五万吨ハ大
正七年一月ヨリ大正八年九月迄ニ順次之ヲ

米國ニ供給スルハ六十万屯ハ前送米國ハ
供給シタル現在船十五万屯ノ補填ト我
聯合策意ノ用途ニ充當スルキト
ヲ提議シタリ命シテ我民内ノ注文既
約品ニ対スル解林ノ交渉ハ前掲ノ通り
別個ノ問題ナリ以テ右造船材料
ト云フハ一宗ノ標準ノ型船ヲ製造スル

材料ニシテ我民ノ注文品ト全然
別物ナルト勿論ナリト又

以上我政府ノ提按ニ対シ米國政府ハ本
年十一月ヨリ向十ヶ月間ニ毎月重量屯數十
万屯宛合計百万屯ノ船舶ヲ本邦ヨリ供
給シ之ニ対シ民間ノ注文既約材料四十
五万屯ヲ来年八月迄ニ輸出特許スルキ

コトヲ村按シ且ツ来年八月以降ニ於テ
ハ船舶ノ供テ受クル件西々トシト申来
レリ

右米國提議ノ如クセハ實際造船ノ工
程ニ阻シ如何ニ努力スルモ米國供給ノ
材料ニ依テ製造シ供給シ得一キ船
舶ハ重量電^機三四十万電ニ過キサルヲ

以テ其余ノ船方七十万電ハ勢カヒ
本邦現存船舶ノ多数ヲ割テ之ヲ
供テセザル一カラサルコトトナリ到底耐
フル所ニ非ス元來我政府ニ於テ現存
船舶重量電機數十五万電ヲ与ヘントス
ルハ前掲ノ通り聯合兵國ニ對スル援助
ノ趣旨ヲ以テ海運調節上慎重ナリ

査ヲ悉シ耐工能ヲ限リノ犠牲ヲ拂ヒ
最大限度ヲ提議シタルニ此
以上ヲ割譲スルコトハ我海運ノ現
状ニ照ラシ事實不能ノ事ニ屬ス
而シテ米國ハ去年八月以後ニ於テハ
船舶ノ供給ヲ受クルノ必要ナシト
云フカ故ニ我政府ハ前掲我提撥中

某年九月以降ニ屬スル計画ヲ切リ
捨テ更ニ本邦ヨリ本年中ニ重量
七噸約十五万吨ノ現存船舶某年一
月ヨリ八月迄ニ米國ノ供給材料ニ依
リテ造リタル重量七噸約二十万吨ノ新
造船船合計約三十五万吨ノ船舶ヲ提供
シ米國ヨリハ本年中ニ約十五万吨モ

年一月ヨリ二月迄ニ約二万五千屯合計
十七万五千屯ノ材料ノ供給ヲ受ケテ
ニヨリ重量屯数約五十二万五千屯ノ船
舶ヲ製造シ前掲米國ニ提供ス一十
新船二十万屯ヲ引去リ残ル三十三万五
千屯ノ内十五万屯ハ米國ニ提供シタル現
存船ノ補填ニ當テ十七万五千屯ハ本
邦及鄰合國ノ一邦トシテ第應上本邦
ノ自由處理ニ保留スルノ權ヲ立テ而シ
テ予米國ニ提供スルノ權ヲ得ル
此ノ提議ニ對シ米國ハ概シテ諾スル一ノ船
隻及噸位ノ限制ニ材料ノ数量ニ付テハ
提議者ノ提議ニ同意シ米國ハ此ノ提議者
提議者ノ提議ニ供與スル船隻ノ噸位ニ
滿

10

(現状最良好たるノ一限リ十一年迄)タレキト船
 船代價ハ既存船一噸百七十弗新造船一噸
 存ニ百弗タレキト及彼ヲ供給ス材料稅
 氏ヲ准支契約情取ノ由既ニ未至ノ製造所
 二於テ製造ヲ終リ既ニ積出港ニ到着シタルノ
 又ニ積出サレトセルモノニ限リ而モ此項限ニ在年
 十一年中ニ武系五年限・十一年中ニ武系限一十年

八月中迄二十系限十一年中ニ於テ
 擧げ之来リ

以上今日迄ノ交渉ノ成リタルカニ未ダニ聯
 合ニ要スルノ點ニ對シテハ限リ共同簽署
 ノ便宜ヲ進ムル爲メ飽クマシ努力ヲ著ムモノニテサ
 此等事情運ニ際シ吾等英米氏ノ利益ニ及ボ
 缺クカサレ配備及他ノ聯合署名ニ對シ船船又

交通に援助を以て之を以て生ずる程度に止む
 うあすはト勿論なり然るに事出づれば是れ係争
 ヲ考慮スルに或る供與スル船舶ノ船齡ヲ七年
 又十年以下に限ルル也即ち海外般路ノ大動脈
 名之船舶ノ使用を以て優良船舶ノ多數
 ヲ割クトナリ故に海運組織ノ系統ヲ攪乱ス
 ルノ虞アリ而テ材料ニ對シ民手既約品ノ一都
 ヲ姑對面ニ充當セトスル也故に輕便約材料ニ若
 造船所カ要スル也應ニ時々ノ代價ヲ以テ契約
 セルモノニシテ且ツ夫々他人ノ注文ニ應ニ種々各樣ノ
 造船ニ適宜中ニ係ルモノニテ故ニ新カク材料ヲ
 以テ一定ノ期限内ニ統一的計畫ノ下ニ造船ヲ促
 進スルト能ハサルモノニ於テ又船舶代價ノ長クニ
 至リテモ材料代價ニ比シ著シキ懸隔アリ殊ニ較

氏等之於我途中、新船一艘、若僕ノ契約
ヲ為ルルカ、ルヲ以テ新ニ低價ヲ以テ之ニ應センコト

是亦少可御事ニ為ル
新之船時存ニ及、運送ノ新價ナシ、事ニ政府ニ
村之坊家親ニ付、船運ノ調和ノ態度ヲ以テ、因循
ナク、交渉ノ果、運送ノ新價、亦以テ、ルルカ、
此之故、我等ノ左、新船ノ契約、亦以テ、ルルカ、

毎ニ多少ノ懸隔アリ、
到ラザリシ、運送ノ新價、亦以テ、ルルカ、
及運送ノ新價、亦以テ、ルルカ、
在、運送ノ新價、亦以テ、ルルカ、
運送ノ新價、亦以テ、ルルカ、
運送ノ新價、亦以テ、ルルカ、

此等之ヲ斷念中止スルニ要スルヲ取ルコトニ
決セリ

是ヨリ先半第五六月交ニ於テ我造船界ハ
既ニ艱難材料ノ缺乏ヲ許居テリ殊ニ米
國ニ於テ鉄材輸出停止ノ指令實施セラ
ルニ其結果ハ造船界ニ同下製造
者等中ニ亦シテ艱難ニ達シ中絶ニハ
ルノ一大困難事ナルコトヲ憂ク一面ニ於
テ前場ニ注意ヲ遣ヒ其ニ他面ニ於テ
我國ニ對シテ造船材料ニ別ニ慎重ニ調
査スニ決シ

初メ我造船界ニ米國ヨリ造船材料輸出
ノ困難ニ達シテ於テハ艱難材料輸出
ノ困難ニシテ當業者ノ苦痛ヲ許コト

急テルヲ以テ一般の造船業達ノ業ヲ講
ムルト共ニ特ニ鐵板ノ供給ヲ請カテラシ
ムル必要ナルヲ認メ去ル六月下旬閣僚各
首大臣協議ノ結果各主管官長ノ爲メ
ニ求メ種々密議ヲ尽シタルモ海軍工廠
ニ於テ可及的ニ之ヲ製作シテ配スルニ按テ
立テ其原料ハ之ヲ板光製鐵所ニ仰ク

コト、ニ尔来精々準備ヲ進メ目下既
實行期ニ入リ其第一期トシテ十一月ヨリ
順次約八百ト製造シ、其間ハ右造
船所ノ實地ニ就キ十二ヶ所ノ造船所ニ
於ケル製造中ノ新船二十隻此重量比數
約十一万トナル也、船體ニ對シ其不足ナル
以テ給補近スルコト、ニ數日前之カ配分

百ヲ文ロ備業者ニ通達シ之ニ由ニ難ク
缺乏ノ為メ新船ヲ完成シ能ハリリト者
直ヤニ其工程ヲ進メ得ルニトナシリ尚
ホ海軍ニ於テハ引續キ造船界ノ必要
ニ應ヒ其製作ヲ繼續シテ相商便宜
ヲ映フルノ心算ナリ

次ニ目下建造中ニアリ且ツ最近ニ引續キ建造セントスル船舶
ニ對スル船體ニシテ米國禁輸ノ為メ幾分材料不足ヲ来
シタルモノニ對テハ當初當業者ノ申出ニ依リ約六万吨ヲ算レ
タリシカ再後米國ニ於テ特許ヲ得タル材料ノ輸入モアリ
最近ノ實地調査ニ依リ総屯數千噸以下ノ船舶中第一
類即チ既ニ龍骨ヲ据ヘ付ケエ事申ニアル船舶ニ對シ
約七千五百噸ノ不足材料ヲ補充セハ約九十一隻其重量
噸約三十六万九千噸ノ船舶ヲ完成セシムラ得又第二類

16.

即々最近ニ龍骨ヲ据付テヘキモノニ對シ約一萬一千餘噸
ノ不足材料ヲ補充セバ約五十八隻其重量噸約二十二
一噸ノ船舶ヲ完成セシメ得テ則チ第一類及第二類ノ
船舶ヲ製造セトセル四十七ヶ所ノ造船所ニ於テハ百四
十九隻其重量噸約五十九萬噸ノ船舶ヲ對シ約一萬八
千餘噸ノ材料ヲ補給スルヲ得ハ之ヲ完成シ能フヘキヲ以テ
我製鐵所ヨリ供給方ニ付テ目下農商務省ニ於テ熱心

調査中

電送第六一〇九號
大正六年十一月廿一日 三時四分發

電報
直電

11月21日 3時4分

電報
第六一〇九

大正六年十一月二十〇日起草
同 年 月 日 附

送第 號 主任

主管 通商局長

本野大臣

在英

大正八年十月拾壹日附録第二部接受

珍田大使宛

第七八一號 至急

貴電第五〇八號 閣下

外務省

帝國政府ハ米國ノ鉄材輸出禁止ニ因リ本邦ノ造船業ノ受クル打撃ノ甚大ナルニ願ヒ我カ民間ヨリ米國ハ該文契約済ニ係ル鉄材四十数万屯ノ輸出解禁方ヲ交渉ノ主題トシテ米國政府ト折衝ヲ重ネタルモ同政府ノ決意固クシテ容易ニ承諾ヲ得サリシニ付

右註文 雜品 濟品ニ関スル交渉ハ
一応之ヲ打切り別ニ米國政府ノ
希望ヲ酌ミテ帝國政府ノ船舶急
造案ヲ作製シテ米國政府ニ提
案セルコトハ 陸電第 六七五号及
在米大使宛陸電第 三三七号ノ
通りナリ

外務省

右帝國政府ノ提案ニ對シ米國政府
ハ曰クヨリ米國ハ註文契約済ナル
鉄材四十五万吨ヲ明年八月中ニ
輸出許ラズ一キニ付 本年十月ヨ
リ向テ十個月間ニ毎月十万吨ノ
割合ヲ以テ總計 百万吨ノ船舶
ヲ曰クヨリ米國ニ賣渡サンコトヲ
要求セリ

右米國ノ要求ノ如ク本邦ヨリ百万

屯ノ船舶ヲ調達スルカ如キハ本部
造船能力ニ於テ之ニ応スルノ餘地
ナキハ勿論其大部分ヲ新造シ
得ヘシトスルモ之カ竣成ハ數ヶ月
後ニ始マルモノニシテ結局現有船
船中ニテ米國ニ提供スルノ外
ナキトコロ斯ノ如キハ日本ノ海運
及貿易ヲ死地ニ陥ルモノニシテ

外務省

國家經濟ノ急激ナル変化損失
ヲ率ニ到底政府トシテ之ヲ漸行
シ難キモノナルヲ以テ帝國政府ハ
更ニ日本ノ立場ヲ斟酌シテ财力
提案ト餘リニ隔絶セサル範圍
ニ於テ米國對案ノ修正ヲ求メ
タルトコロ米國当局ハ明年七月
以前ニ米國ニ讓渡シ得ヘキ最

大隈ノ日本船舶吨数ヲ承知シタキ
旨申出テタルニ付帝國政府ハ更ニ
審議ノ結果最終ノ決定トシテ
左ノ提案ヲナセリ

(一) 日本船舶重量吨約三十五万吨
(現存船舶約十五万吨ハ本年申
ニ出発、新造船約二十万吨ハ
明年一月ヨリ八月末日迄ニ出発)

外務省

ヲ米國ニ提供スルコト

(二) 右ニ対シ造船用鋼鉄材十七万
五千吨(約十五万吨ハ本年内ニ
二万五千吨ハ明年一月ヨリ二月
迄ニ日本ニ到着)ヲ米國ヨリ日
本へ引渡スコト

右ニ対シ米國政府ハ日本船舶三
十五万吨ノ讓渡期日ヲ繰上ケ

本年申、現存船二十万也、去年
三月一日迄、新造船十五万也、引
渡ヲ来メ其ノ代償トシテ十七万
五千也ノ造船材料ノ着出許一
ヲ英フヘキコトヲ提議シ来ルル處
元年前述我々最終提案ハ米
國政府ニ於テ聯合國援助ノ急
成スル爲メ其ノ所要船舶ヲ来メ

外務省

タルニ對シ帝國政府ニ於テモ聯合國
英國援助ノ主旨ニ依リ純テ限
犠牲ヲ拂ハントスルハ誠意ヲ以テ
現存船中ヨリ繰合セ得ル最
高限度ヲ提議シタルモノナルニ拘
ラス米國ノ提議ハ我々現存船
ハ製造中ノ船舶ヨリ提供スルコトヲ
主眼トせんモノニシテ到底本邦ノ

現狀ニ於テ堪ヘ得ル所ニ就ス依テ
帝國政府ハ更ニ米國政府ノ反
省ヲ求メタル處ニ政府ハ更ニ
たノ提案ヲナセリ

(一)日本ハ船齡七年以下五千ト
以上十哩以上ノ船舶重量ト
十五万吨ヲ米國ニ賣渡シ明
年一月二十日迄ニ米國ニ引渡

外務省

スコト但シ實質ノ良好ナル船
舶ナラバ船齡十年以下ニテモ
不可ナシ。船舶價格ハ一ト百
七十拜ノ適當ノ検査ヲ經テ引
渡完了後仕掛フベシ

(二)上記要目ニ該當スル新造船
二十万吨ヲ日本ヨリ米國ニ賣
渡シ明年八月一日迄ニ米國ニ

於テ引渡スコト是等船舶ニハ
一屯二百弗ヲ仕拂フヘシ

(三) 右代償トシテ日本ヨリ契約済
ニ係リ製造完成セル鉄材ノ
内ヨリ去年八月中迄ニ總計
十七万五千屯ノ量出ツ許ラヌ
ヘシ

帝國政府ハ更ニ互讓ノ精神ヲ

外務省

以テ慎重考量ヲ加ヘタルニ米
國対策ハ彼我互ニ供給スヘキ船
舶及造船材料ノ数量ニ於テ我
提議ニ一致セルニ拘ラズ船舶及
材料ノ引渡期限、船齡及船舶
價格ノ制限並ニ材料ヲ我カ民
間誰ニ契約済品ニ限ルコト等ノ
附帯条件ハ我カ實情ニ照シ

總テ実行不可能(在米大使ヨリ
特電ス一キ曰大使宛往電第四二
六号参照)ニシテ到底承諾ノ餘
地ナキヲ以テ船舶ヲ急造シテ之ヲ
米國ニ提供スル旨ヲ以テセル對
米交渉ハ帝國政府ニ於テ之ヲ
断念スルニ決シ十一月十六日其旨
米國政府ヘ回答方在米大使ヘ

外務省

電訓セリ尤モ本邦民間ヨリ米
國ハ註文契約済ニ係ル造船材
料解禁ノ問題ハ本件交渉
トハ全然別箇ノ問題トシテ依
然存続スルモノナリトス

本電信、往電第三七五号、在米大使

宛往電第三二七号、及在米大使ヨリ

轉電スヘキ同大使宛往電第四二六号

参考ノ為メ在佛大使ヘ轉電アリタシ

電信課長



大臣
次官

163

（附）倫敦茂大正六年十一月二十日午後七時。

政務

本野外務大臣

珍田大使

通商



第五。八號

人事

鋼鐵船舶文據問題。閣下米國政府提出ノ

會計

條件折合案又ハ日本側ノ於テ交傷断絶ノ

文書

已マク得ヤルニ至リタル旨。十一月二十八日陸

參政官

逸社ハ入電アリタル處本問題ニ就キ巴里

副參政官

會議ヲ行テモ自然話頭ニ上ルコト之レアル

ベク旁事使心場ノ為本問題交渉ノ停息要領

大正八年二月拾一日 記録第一二部接受

40

皇太子御回電了り

電信課長

大臣 次官 吉

（一七）

巴里寄 大正六年十月二十九日 虎六〇
本野外務大臣

松井大使

政務

第二三〇号

通商



帝國船舶ト支換的ニ米國鉄路入ノ協定不調ニ

人事

終リタル者東京通信トシテ当地新聞紙ニ掲載

會計

セラシメル 慶左ハ事實ナリヤ或行ノ大要参考

文書

ノ為電報相或極致度シ

參政官

副參政官

大正八年十月廿一日 録第一二部接覽

（生野外務大臣）

電信課長

大臣 次官 吉

（一七）

華盛頓發 大正六年十月二十日 虎六〇
本野外務大臣

佐藤大使

政務

第一一九号

通商



貴電 第一一九号 文書キ切

人事

シテ通リ往來ノ行懸リモアハ付親シク國

會計

局長官ニ面談ヲ遂ケ又キ慶岡官ハ生憎旅

文書

行中ニテ二十日 譯華ノ電ニ付其上ニテ直

參政官

副參政官

ニ取運フベシ 鹿野會置了リタシ

尚ホ十九日東京電報トシテ諸新聞ニ掲載

セラルル處ニヨシハ本件交渉打切りノ事

大正八年十月廿一日 録第一二部接覽

（生野外務大臣）

實、尋已ニ通信省側ヨリ費表セラシタ
由右ハ當方ニテ斯カラズ世上ノ注意ヲ喚起
セハ厥此ノ如ク費表ヲ急カシタルハ如何ナ
ル幸由ニ依ルモノナリヤ茲其ノ費表ノ内容
等本使心傳迄ニ電報アリタシ

文書課
長
印

大正六年七月廿日 接受



再回

大正六年十一月二十日起 草子
別紙
同 年 月 日 附 大正六年七月廿日 發給

機密第四四號

主任

通商局長

本野大臣

主管

機密

田 迎 信 大 臣 宛

大正八年上月拾壹日記録第二部接受

米 國 鉄 材 禁 輸 交 渉

二 通 二 件

外 務 省

本件米法禁止

在米使薩大使(電訓)

小慶今般別命字、迎回大

使ヨリ米中有一少の回電後

般省省中發表ノ儀ニ関シ

候分、儀即由示、米中及共

般申進ル也

別命使薩大使(米中)五九号

ハラエリ、此ノ人カ、候付

大 急
即刻發送

次
六
十
日

秘

華盛頓 華盛頓 華盛頓 華盛頓
本野外務大臣 佐藤大使

廿五日 華盛頓
貴電 華盛頓 華盛頓 華盛頓
之ヲ廻リ往來ノ行懸リモアハ
務長官ニ面談シ遂ケ又キ慶岡官ハ生憎旅
行中ニテ二十日帰華ノ筈ニ付其上ニテ直
ニ取運ノベシ在所會置
尚ホ十九日東京電報トシテ諸新聞ニ掲載
セラルル處ニヨシハ本件交渉打切りノ幸
通信省ヨリ

大正八年三月拾壹日記録第二部接受

實等已ニ進件者個ニ發表セラレタル
由右ハ當方ニテ其ノ注意ヲ喚起
セハ厥此ノ如ク發表シタルハ如何ナ
ル幸由ニ依ルニ次ナリヤ茲其ノ發表ノ内容
等本使心傳送ニ電報

電信課長

大臣

次官

吉

一九〇〇

華府條 本府條 大正六年十月廿日前六号

本野外務大臣

佐藤大使

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

大正八年二月拾二日 記録第二部接受

第五二〇號
 第一號 第一九號 閣下ニ于日國務長官ニ面
 會シ 右件御訓令、次第ソリ傳達シ米國對業
 中ニ在ル船齡價格及材料供給方等、
 閣下ニ制限、餘リニ過難ナルヲ日本政府
 到底解決、見込ムルヲ認メ一先ツ交渉ソ
 打切ハコトニ決定シ府使、其ノ決定ヲ貴官
 ニ通告ス、右御訓令、接シ居リ然ハ、本
 極意、進、ス

件ニ就テ 貴官既ニ御配慮、抑々モアリ尚日
 本、於テモ契約済品、輸出許可ハ依然同
 題トシテ 存シテ考メラル以テ、旁々此儘之ヲ以
 テ 打切ルハ 常便ニ於テ 如何ニモ 残念ナリト述
 ハル。 長官ハ 自白トシテモ 右件此所迄復
 涉進揚ニタル 今日價格 船齡等 謂ハル
 細目、五、三折角、努力ヲ 盡シタルハ、大
 遺憾ナル以テ、更ニ 備向者ヲ 呼寄セ 備ト
 自今、考メ申會メ 再考シ 促メ、レ 就、ハ 右
 交渉打切、刻令リ 具、儘 實行セラル

コトハ姑ク差控、ミシシ、尚大使館側ヨリ
モ痛向者ニ對シ日本ノ對案ヲ承諾シ難
キ事因リ詳細説明置、ミシシトコトナリ
シ、自本使、真ノ好意ヲ謝シ置リ引取リ
タリ就、戰時通商向及船舶向、直ニ
說明方取計ヒ且、上ニ、尚先方ニ讓歩ノ
意ナリハ正式ニ御訓令ヲ實行ス、ウ斯クセ
ハ誤解又ハ悪感ヲ除ク上、萬々遺憾ナ
カハ、ミシト思フ、右角見後恰モ英國大
使、國務長官訪問、タノ来ルハ、會レタハ

カ同大使、右訪問後本使、該所ニ依リハ
國務長官ハ同大使、夫レトナリ南極ニ先
ニ答、本件ニ事恒、依リ、大統領ニ持出
シ解決ヲ望ム、積リ、ナリト述、ミシ、同

文書課長

大正六年七月廿二日接受

80



大正六年七月廿二日起草

別紙

同 今午 今午 附

大正六年七月廿二日發送済

機密

通商局送第四五七號

主任

通商局長

本野大臣

田邊信大臣宛

大正八年七月拾壹日記録第二部接受

米と鉄材禁輸交渉

突スル件

外務省

本件ニ突シ七月二十日附通機密送中
 四五四号ヲ以テ申進置矣次郎
 有之矣敷今般在米估為大使
 ヲリ紙早、通、本件ニ就キ
 米不占給長官ト今見ノ顛末
 ニ突シ米電有之矣ニ付茲ニ
 及リ送付委員ヲ査閱有成也
 (此紙在米大使米電中五二〇号、軍行向、有)

九〇
本府係 大正八年七月廿四日
本府係 大正八年七月廿四日

本野外務大臣 佐藤大使

大正八年七月廿四日
二十日國務長官、面
會し大伴御訓令、次第ヲ陳述し米國對策
中ニ在ル船齡、價格及材料供給方尋、
關スル制限、餘リニ過酷ナルヲ日本政府
ハ到底解決、見込ムルヲ認メ一先ツ交渉ヲ
打切ハコトニ決定し本使、其決定ヲ
通告ス、本使、訓令ニ據し居リ然ハ、本

大正八年七月廿四日記録第二部接覽

件ニ就テ 閣下ニ於テ 御配慮、次第モアリ尚日
本、於テモ契約済品、輸出許可ハ依然肉
題トシテ存シテ考テハ、以テ之旁ニ此儘之ヲ以
テ打切ルハ本使、於テ如何ニモ残念ナリ
ハ、之ハ、長官ニ自白トシテモ大體此可達
進捗ニタル今日價格、船齡等謂ハハ
細目、五、折角、努力ヲ盡スルハ大ニ
遺憾ナリ、更ニ當局者ヲ呼寄セ、留
自分、考テ申會シ、再考シ保メ、ハレ就テ、右
交渉打切、訓令ヲ具、儘實行セラル

コトハ姑ク差控、^{日本}南大使館側ヨリ
 備向者ニ對シ日本對案ヲ承諾難
 キ事用リ詳細説明置^アリトコトナリ
 シ、自本使、其好意ヲ謝^テ事引取リ
 タリ就ニ戰時通商向及船舶向ニ直ニ
 説明方取計ヒ且上ニ高先方ニ譲歩ノ
 意ナラハ正式ニ御訓令ヲ實行^スル^ル斯クセ
 ン^{先可}誤解又ニ悪感ヲ除ク上、萬々遺傳ナ
 カル^ハシト思^ハス右會見後恰モ英國大
 使^カ國務長官訪問ノタメ来^ルル^ル會^シタル

カ同大使、右訪問後本使、^{内務省}禮所^ニ依^リテ
 國務長官、同大使、夫^レトナリ南極^ニ先
 ニ答、本件^ニ事^宜依^リテ大統領^ニ持^出
 レ^テ解決^シ答^ス積^リナ^リト述^ス、^之由^ナリ

電信課長

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官



一五四二二
(晴)

華府發
本省署
大正七年十月廿日
右五回

田外務大臣
石井大使

第七回一梯

Billet 如キ中製鉄鋼品

Scrap iron and steel 少降年一般
貨物、輸出制限、休戦以來實際上海
緩和セラレツアリ

大正八年十月廿四日

記録第二部接受

急

文書課長 文書課
長 檢印

大正七年三月廿五日 接受

49

大正七年三月廿五日 起草

附 大正七年三月廿五日 發送濟

機密

機密送第四〇六號

主任

主管 通譯局長

外務省

大正六年十二月廿四日記録第一二部接受

石丸 陸軍省副官長
岡本 陸軍省副官長
加藤 陸軍省副官長
若原 陸軍省副官長
五島 陸軍省副官長
別冊 陸軍省副官長

米田 陸軍省副官長
二二二二

本年三月廿五日 陸軍省副官長
一〇〇〇 陸軍省副官長

(別冊) 陸軍省副官長
陸軍省副官長

と
○
五
(印)

華清茶
本省署
大正七年十一月廿五日
奉命

内田外務大臣
石井大使

休前以未
如キ半製鉄鋼品

Scrap iron and steel
貨物輸送制限ハ作戦中未實際止著シク
緩和セラレツアルヲ以テ

大正八年十一月廿四日記録第二部接受

電信課長

大臣

次官

古

二三九
(略)

華府 大正六年三月二十三日
本署 嘉 大正六年三月二十三日

布 譯 外 務 大 臣

佐藤 大 使

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

43

廿五日(七)号
如前同題、同答書に、令見
貴電第百五二の号、閱シ

二十一日、臨時通商取締局長代理に、面会日本に
テハ、最早本件交渉ノ打切ノ決心ヲナシ、其旨本
使ニ訓令を來シ、ル次、第ナルモ、國務長官ノ言モ
アリ、以、終不式ニ打切ル事ハ、先ヅ日本が果、固ノ
対策ヲ暴諾スルヲ得、カル理ヲ述、マ置、テ可シ
トテ、貴電第百四二の号ノ内容ヲ詳述シ、ル、慶日

相 以 通

大正八年三月拾一日 記録第一 部 接 獲

本ノ御説明ハ、遂一了、解セリ、事、ヨリ、之ニテ、交渉
ヲ打切ラシ、ハ、不得、也、ガ、慶ナルモ、当方ノ提
出シ、タル、討案ハ、必、カ、シ、モ、最後、通牒ノ、意味、ニ、ア
ラ、ズ、カ、方ノ、見、テ、妥、當、ナ、リ、ト、モ、ル、条件ヲ、明、記
シ、尚、從、來、具、体、的、ニ、提、議、ニ、上、ラ、カ、リ、シ、般、論、修、正
等ノ、案、ニ、至、リ、テ、モ、奪、ノ、進、行、ヲ、計、ル、為、多、ク、ヨリ
切、出、シ、タル、感、ニ、テ、初、メ、ヨリ、日本ガ、全、体、ニ、盲、從
セ、ラ、ル、ベ、シ、ト、ル、ニ、ア、ラ、ズ、之、ニ、對、シ、修、正、ノ、意
アラ、バ、告、方、ニ、テ、敢、テ、聞、カ、レ、ト、欲、シ、タル、ナ、リ、然
ル、ニ、今、固、貴、方、ニ、敢、テ、何、等ノ、修、正、案、ヲ、モ、提、シ、ラ

レ不昇ニ之ヲ應諾シ得ル理由ノ下ニ本件
ヲ斷念セントセラル、ハ聊カ意外ニシテ貴方
最後ノ提案が寸分モ譲歩ノ余地ナシトハ事件
ノ性質上誰人モ信ズル能ハサル處ナリ貴方ニ
テハ能進モ交渉ヲ絶統ニテ四滿ノ解決ヲ得テ
キヲ以テ先ツ我が對案ニ對シ貴方ノ修正案ヲ
提出モラレ度ニト述ベ去之ニ付先ノ件ハ此際
明言スルヲ憚ラズト云ヘリ計々
一、船齡ヲ十年以下ニ限レルハ日本ノ船舶統
計ニヨリ打算ニテ過重ナラズト思惟シタルニ

ノナルモ甚ニ懸念トシ難キ歳ナラハ是ニ切
下ゲテモ甚ク是ナレ唯米國ハ如何ナル老朽船ニ
テ元勳ヲ受テト云フニアラサルハ難答
セラレ度ニ致ト相違ノ船齡制限ハ必要ナリ日
本ニ初メヨリ大抵同幕アリシナルヲク米國ニ
老朽船ノミヲ押付ケントセラレタル歳ニハア
ラサル可シ
二、材料引渡 期限ニ付テモ日本ニ於テ船舶
後我ノ為必要ナラハ之ヲ早ムルモ甚ク是ニ但
シ日本ノ要求ノ如ク明年二月迄ニ全部ヲ引渡

スコトハ何分不可能ナリ

(三) 價格ニ就テモ對案ニハ米國ノ船舶ヲ操業
トシ之ニ材料割宛ノ事實ヲモ斟酌シタルモノ
ナルモ是ニテモ不十分ナラバ是ニ其至旨ト認
ラルル處ヲ示サレヌ

(四) 唯材料ヲ民間並文契約局中ヨリ別取らん
ハコト大ハ是非兼務アリ復シ此際新ニ材料ヲ
製作スル事ハ米國ノ事情之ヲ許サズ又既在製
作中ノ材料ヨリ振向ク可キ會地ナシ
トノ事ナリモラ以テ本使ハ日本ノ提議ハ勿ク

ヨリ掛値ナク金力ヲ尽シタルモノニシテ其死
一、二、三ノ美ニ付テモ從來賣方ノ口振ニ依リ到
底勝敗未ク見出シ難シト認メ居リ又是ニ四ノ
美ヲ蒸籠ニカルヲ得ルニ是テハ日本ハ終局
目下ノ決心通り交渉ヲ断念セサルヲ得ルニ
シ然レ折南ノ事ニ付斷隔述ノ次第ハ篤ト本使
ニ放テ考慮シ置ク可シトテ一先ブ別取リタリ
而件ニ關スル意見ハ別電ヲ以テ申進不クシ

電信課長



大臣

次官

木野

一三三六〇

暗

華盛頓 大正六年一月廿三日 前二二五

本野外務大臣

佐藤大使

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

大正八年二月拾一日 記録簿 一 部 録 録

新 経 過

44
貴電(前) 第五二〇院ニ関シ
今日本件 交渉ヲ断念セラルルニ至リ
又ハ事情餘義ナキ次第ニテ米國政
府又ハ民間ニ何等後解又ハ悪感ヲ惹
起スヘキ補助金ニテラサルモ开ハ表面ノ理
屈ニシテ實際本件ハ單ニ兩國間物資
交換ノ問題ニテラスニテ日本ヲ聯合國ノ

為ニ貢獻スルノ誠意如何ノ問題ト密接
ノ関係アルヲ以テ若シ交渉打切ノ方法
宜シキヲ得サルニ於テハ日本が面白カラ
サル地位ニ置カル一キコトナキヲ保セサ
ルハ緊要ヲ待マサル所ナリ然ルニ國務
長官ノ態度が往電第五二〇院ノ如ク
又尙尙若ノ態度が往電第五二二院ノ如
クトスレハ假令彼等ノ努力ヲ以テテ到
底満足ナル解決ヲ得ルノ見込ナシトス
ルモ以テ我ヨリ彼等ノ態度ヲ傍觀シ脚

訓令ヲ振り翳シテ交渉打切りノ手段ニ
出ツルハ恰モ先方ノ好意ヲ故ナク振り
切ルカ如キ姿トナリ當方ノ理由が正ニ堂
々タムニ拘ラズ米國政府ハ勿論一般民衆
ノモ悉感ヲ貽シ將來各般ノ問題處理
上ニ本使が不利ノ地位ニ立リ一キハ人情
已モ得サレ所ナリ加之民間ノ契約商品引取
リノ問題ハ依然之ヲ存續セラレルニ脚趣意
ナルモ彼ト此トハ密接ノ關係ナリ當方
ノ問題が面白カラサレ結末ヲ附クルニ於テハ

右ノ問題モ當分ノ内到底解決ノ見込ナ
カレ一キハ覺悟シ置カサルヘカラス又米國
ノ對案中ニ現ハレタル船齡及價格ノ
二点ニ付日本ハ單ニ其ノ應諾ニ難キ理
由ヲ述ヘタルノミニテ更ニ進ンテ其ノ腹
案ヲ示ササルハ疑惑ノ種タルヲ免カシ不
彼レ是レ思合ハスルニ此際先方ノ言フ所
ヲ按テテ我決心ノミヲ通告スルハサテ
カニ往電第五一九號ノ東京電報ニ
依リ日本が米國政府ニ通告スル前ニ既ニ

新聞之發表ニ関スル態度ニ嫌ヲ示ササル
際自カラ求メテ先方ノ悪感ヲ買ヒ且ツ
交渉断絶ノ責ヲ負フモノニシテ甚ク極
策ナリト思考セラレハ此際トヒテハ
形式的ニモ一先ツ往電第五二三号ニ付
ニ相當具體的ノ回答ヲ爲シ是レカ理由
リモ懇切ニ説明シタム上先方ニテ之ニ應
セズンバ徐々ニ交渉切ノ餘義ナキヲ了
得セシメ之ト共ニ契約商品引取りノ件ニ
付留保リ為シ置クニト然レトト思考ス

何分ノ義御電訊ヲ請フ

45

電信
明

次
古

電信課長代
文書課長

大正六年十一月二十四日起章
同 年 月 日 附

送第 號

主任

主 管 郵 局 長

本野大臣

電送第六一七四 號
六年十一月廿四日 時 分 發

在米
佐藤方使宛

大正八年十二月拾壹日記

第四三五號

貴電第五一九号後段ニ関シ

外務省

通信者ニ於テハ本邦海運及造
船界ノ實状ニ顧ミ我々事業者
ヲシテ永ク不安定ノ位置ニ立
タシムルヲ不得算ト認メ一日又早
ク方針ヲ示シテ其途送スルヲ知
ラシムルノ要アルノミナラス徒ニ時日
ヲ経過スルニ於テハ其間事實ヲ
誤傳シ却テ我々民間ヲシテ一層

混惑セシムル惧アルヲ以テ十一月十ニテ
本問題交渉ノ概略ヲ公表シタル
モノナル趣ナリ右席含マテ

外務省

文書課長

大正六年七月廿四日接受



大正六年七月廿四日 起草
同 月 日 附 別紙

大正六年七月廿四日 接受

機密

同 送第 四 五 八 號

主任

主管 通商局長

本野大臣

田通信大臣宛

即刻
德

大正八年二月拾壹日記録第二部接受

米石鉄材禁輸交渉

案スル件

外務省

本件ニ案シ上月二十一日附通機密
送弟四五七号ヲ以テ申進並ニ交
次第有之ニ案今般在米石交
大使ヨリ別紙甲号号字ノ通リ米
石石時通商取締局長代理
ト会見ノ結果ニ案ニ電報有
之尚乙号号字ノ通リ本件交渉
解決方ニ案スル意見尙案中

有之矣。初、日大使當幕中、次第
ハ至極尤元ノ義ト被賜矣。就テ
ハ別紙ヲ閱悉ク考量ノ上米
多政府ニ對スル回答振ニ義ニ
何分ノ義ヲ回報スル必要
在申進矣也

為欲在米大使來電第五ニ七号
付函ノ分單ヲ甲号トシ

外務省

右來電第五ニ二号付函ノ分單
乙号トシ 福附ノト

甲子 甲子 甲子

本名 大正八年五月二十三日
布野外務大臣 佐藤 佐藤 佐藤

二十一日 戦時 通商取締局長代理 面会
上野政府

於テハ最早本件交渉ノ打切ノ決心ヲナシ
使(刺合) 交渉ナルモ 閣務長官ノ言モ
アリ以 終不式ニ 打切ニ 未(一應) 日本が米國ノ
対策ヲ 慕諾スルヲ 得カル 理由 不明ニ 置ク可シ
トテ 貴電 中ニ 示サレノ 内容ヲ 詳述シタル 處

大正八年五月拾壹日記録第二部接受

本ノ 交渉 説明ハ 逐一 了 解セリ 事ヨリ 之ニテ 交渉
ヲ 打切ラシムルハ 不得 已ガ 處ナルモ 事 提
示(未) 対策ハ 必ズ 之モ 最後 通商 協定ノ 意味ニ
ラカ 貴方ノ 見テ 妥當ナリトセシ 条件ヲ 明記
シ 尚 従来 具體的ニ 議題ニ 上ラカリシ 船齡 優格
等ノ 矣ニ 關シテ 米國ノ 進行ヲ 計ル 爲 貴方ヨリ
切出シタル 案(未) 日 日本が 全体ニ 盲從
セラル べシトヒルニ 對シ 修不ノ 意
アラバ 貴方ニ 對シ 船齡 優格カント 欲シタル 事
ルニ 今 固貴方ニ 放ラ 修不ノ 修不 案ヲ 提達テラ

レ不昇等ニ之ヲ應諾シ得カル理由ノ下ニ本件
 ヲ断念セントセラルルハ聊カ意外ニシラ^{トス}後方
 最後ノ提案が寸分モ譲歩ノ余地ナシトハ事件
 ノ性質上誰人モ信ズル能ハサル處ナリ當方ニ
 テハ能達モ交渉ヲ絶統シテ固滿ノ解決ヲ得ル
 キヲ以テ先ヅ我が対案ニ對シ^{日本政府}修正案ヲ
 提出セラレ後シト述マ向之ニ付先ノ件ハ此際
 明言スルヲ憚ラズト云ヘリ即チ

中 船齡ヲ十年以下ニ限レルハ日本ノ船舶統
 計ニヨリ打算シテ過重ナラズト思惟シタルモ

ノナルモ若シ應諾セラレ難キ義ナラバ^之又^以
 下^カルモ莫ク^シ唯米國ハ如何ナル老朽船ト
 テモ歡迎デ申受ク^ラシト云フニアラサルハ^ハ歸察
 セラレ^後米^國 相當ノ船齡制限ハ必要ナリ日
 本ニ初メヨリ大抵日暮アリシナルヲ夕米國ト
 老朽船トミテ押付ケントセラレタル義ニハア
 ラサル^可シ

四) 材料引渡 期限ニ付テモ日本ニ於テ船舶
 後方ノ為ニ要ナラバ之ヲ早ムルモ莫ク^シ但
 シ日本ノ要求ノ如ク明年二月迄ニ全部ヲ引渡

スコトハ何分不_レ可能ナリ

(A) 價格ニ就テモ對案ニハ米國ノ船舶ヲ標榜
トシ之ニ材料割宛ノ事實ヲモ斟酌シタルモノ
ナルモ是ニテモ不_レ充分ナリ其_レ更ニ其至当ト認メ
ラル_レ處_ニ示サレ_ル後シ

(B) 唯材料ヲ民間注文契約名目ヨリ引取タル
コト夫ハ是非善惡_ヲ辨_シ度シ此際新ニ材料ヲ
製作スル事ハ米國ノ事情之ヲ許サズ又現在製
作中ノ材料ヨリ振向_クテ今_レ倉地ナシ
トノ事ナリシヲ以テ本使ハ日本ノ提案ハ初メ

ヨリ撤_レ値ナク金カ_レシタルモノニシテ若_シ記
(A) 此ノ案ニ付テモ從來貴方ノ口振ニ依_リ到
底解決_ス見出シ難シト認メ居_リ又更ニ(ハ)
矣_ト善諾セ_ルヲ得_ルニ放_テハ日本ハ終局
目下ノ決心_ヲ通_リ交渉_ヲ断念セ_ルヲ得_ルト
シ然_レシ折角ノ事_ニ付_テ御_座跡ノ次第ハ篤_ト本使
ニ放_テ考慮_シ置_クテシトテ一先_ニ引_取リ_タリ
案件ニ關_スル愚見_ニ別_電ニ_ハ申_上ル_ニ由_リナ_リシ

収

甲子
乙子

幸實卿 大正六年十月廿三日
幸首者 左米

本野外務大臣 佐藤大使

弟五五五

本件 交渉 断念 せらるるニ至リ

又ハ事情餘義ナキ次第ニ米國政
府又ハ民間ニ何等後解又ハ惡感ノ甚
起スヘキ勢合ニアラサシモ開ハ表面ノ理
屈ニエテ實際本件ハ單ニ國間物資
交換ノ問題ニアラスニテ日本カ聯合國ノ

大正八年二月拾日 記録第二部 接

為ニ貢獻スルノ誠意如何ノ問題ト密接
志關係アルヲ以テ若シ交渉切ノ方法
宜シキヲ得サルニ於テハ日本カ面白カラ
カル地位ニ置カルニキニトナキヲ保セサ
ルハ緊要ヲ待テサル所ナリ然ルニ國務
長官ノ態度カ既電第~~五~~五ノ陳ノ如ク
又尙尙若ノ態度カ前電第~~五~~五ニ至リ如
シトスレハ假令彼等ノ努力ヲ以テテ到
底満足ナル解決ヲ得ルノ見込ナシトス
ルモ以テ際我ヨリ~~米國~~米國ノ態度ヲ倍觀シ

此令ヲ振り翳シテ交渉打切りノ手段ニ
出ツルハ恰モ先方ノ好意ヲ故ナク振り
切ルカ如キ姿トナリ當方ノ理由が正ニ堂
々々ニ拘ラス米國政府ハ勿論一般民衆
ニ對シテモ惡感ヲ貽シ將來各般ノ問題處理
ノ上ニ本使が不利ノ地位ニ立リ一キハ人情
已多得サレ所ナリ加之民間ノ契約商品引取
リノ問題ハ依然之ヲ存續セラレル御趣意
ナルモ彼ト此トハ密接ノ關係アリ當面
ノ問題ニ面白カラサレ結末ヲ待クルニ於テハ

右ノ問題モ當分ノ内到底解決ノ見込ナ
カレ一キハ覺悟ニ置カサレハカラス又米國
ノ對策中ニ現ハレタル船齡及價格ノ
點ニ付日本ハ單ニ其ノ應諾ニ難キ理
由ヲ述ベタルノミニテ更ニ進ンテ其ノ腹
案ヲ示ササレハ疑感ノ種タルヲ免カシス
彼^(徐合ニテ案)見^(由本)スルニ於テ先方ノ言フ所
ヲ據テテ我決心ノミヲ通告スルハサラテ
如^(既)ニ電報^(由)五^(九)日東京電報ニ
依リ日本が米國政府ニ通告スル前ニ既ニ

新聞之發表は、その態度、嫌馬、マラカ
際、^{自分}から求め、先方ノ悪感ヲ買ヒ且ツ
交渉断絶ノ責ヲ負フモノニシテ、甚々拙
策ナリト思考セラレ、^{依テ}此際トシテハ
形式的ニモ一先、^前電報^{未ヤ南向申出}をキテ、^{申出}討
シ相當具體的ノ回答ヲ為シ、是レカ理由
ヲモ懇切ニ説明シ、先方ニテ之ニ應
セズンバ、徐々ニ交渉切ノ餘義ナキヲ了
得セシメ、之ト共ニ契約商品引取りノ件ニ
付留保ヲ為シ置クコト然レトト思考ス

何分ノ義、御電訊、^リ請

文書課長

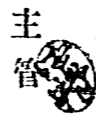
大正六年十一月三十日起草
年 月 日 附

送第

號

主任

通商局長



本野大臣

左米 佐藤大使宛

第百三十九号

貴電第五二二号及第五二三号

大正八年十一月拾壹日記録第一二部接受

閣下米皇政府商局ノ意向ニ関シテハ

外務省

關係官廳ト爲ト協議ヲ重クシテ何
分米皇商局ノ希望者船齡ノ制限
及造船材料ノ注文契約商中ヨリ
供給ヲ受ルル下ニ兵ニ往電第五二六号
所述ノ通商方針ヲ到底應答スル
得ル事柄ニ在リ即チ從來交渉情形
依リテ面会ニ於テ彼此双方ノ希望根
本的ニ把握レカシム明カナルヲ以テ今更他

大臣 本野
次官 佐藤

電信

(時平)

46

電報第六二七三三
分年工月世日大時十

tsunfuki

諸点：於テ蒙分ノ互譲ヲ見ルニ田端
ニ要決結果ヲ見難キ次第ナリニ依リテ
際在道一域本問題交渉ニ之ヲ打切
ルニト、亦及ニ付我提案ニ一先撤回スル
標可施シテ中ノ事ニ周シ米名政府ヨリ新

別段ニ墨蹟ナリ
ニ何等提議アル節ハ帝心政府ニ於テ

之ニ対シ慎重ノ存量ヲ遂ケ出来ル
外務省

ル限りノ措置ヲ採ルニ各ナラサル所ナルニ付
貴方ニ穩當ナル解ヲ以テ右撤回
ノ事ヲ申出テラントト仰付テ然ノ意ヲ之附
言セラシメ差支ナシ

將又船腹供給外問題ニ関シテ
聯今午關係在道ニ未出ニ對シ我

外務省
第百二十九号

市来系ノ如キ事モアリ又
 已電ニテ用催中ノ聯合軍令會議ノ模様
 如何ニ依リテ我方ヨリ出兵セザル代リニ
 向カテ船隻供給ツル必要トスルカメキ事
 然ラ生セストモ限ラレテ身船船同様に
 関スル日米交渉カ今日ノ如キ根本ニ托テ
 彼我一段点ノ意見強ク不可熟ハ情
 態ナル以上ハ其際之ヲ明カニ打切リ置
 外務省
 方如上新航船ニ這入ルニキ極策ヲ
 為ス上ニ却テ便宜ナル今日ノ空航
 事ニ付然レノ事其有ラハ情
 尤モ然等ノ事ニ其否政府ノ打明クルコ
 トハ即必カラカルニ付貴方限ル内令迄
 中近スル義ト申申スアリ

急

大臣

戰造策七號

逋信大臣男爵野田健治

外務大臣子爵野澤博士本野一郎殿

米回鉄材禁輸交渉ニ関スル件



大正六年十月廿二日

米回鉄材

本件ニ付十一月廿二日付通機密送第四五七
號及同月廿四日付通機密送第四五八號ヲ以テ
在米佐藤大使電報添申越ノ趣了承右
ニ付テハ曩ニ十月十二日付私管第三九七號
照會ヲ以テ申進メタル我提案ハ同照會ニ
詳細掲記スル通り實ニ我最後ノ提按ト

シテ米國政府へ交渉方由依頼ニ及ヒ
タルモノニシテ我海運ノ現況ニ照シ此上
讓歩スルノ余地莫ク無之依テ米國政
府カ更ニ対格ヲ提議シ来リタルニ對シ十
月廿七日付戰造策第一七四号ヲ以テ米國政
府カ我提按ヲ其俾同意スルニ於テハ我
亦之ニ應スルキモ其以上ノ要亦ニ對シテ
ハ之ニ應スルコト不能ニシテ我提按ハ
何等俾テシ加フルノ余地ナク若シ協
議成立セサルモノトセハ我國ニ於テ他

ニ相當之期後ノ策ヲ講スルニキ必要アリ
ニ付至急謀否決答ヲ求メラレ度回答
ニ及トスル下ハ御前ヲ置ノ通りニシテ
尙有ニ於テハ本件ニ付今更ラ対按
ヲ提議スルニキ余地無之先以テ此義
御了知相成度候
而テ右米國政府ノ申出ニ對シ應諾
ニ能クナレ理由ハ本月十四日付戰船
第二九二號ヲ以テ委曲申進メタル
通りニシテ同日付戰船第二九一號

回答ノ趣旨ハ同回答文中ニ詳記
スル通り對米交渉ノ一ナル民間注
文既納給以テ別ニ造船材料ノ
供給ヲ受ケ之ヲ以テ本邦ニ於テ
船舶ヲ急造シ米國ニ供與スル
件ハ我政府ニ於テ聯合與國援
助ノ誠意有ラレテ能ク限リノ犠牲
ヲ拂ヒ綜合を得ん前事限及シ提
議シタルモ不幸ニ至リ被救ノ向根
底アリ見解ヲ異ニシ彼ノ容ル所

トナラズル凡ソ国際交渉ハ互譲ノ余
地アリテソノ之ヲ繼續シ円満ナル解
決ヲ得ルニ由ラズキ勸合ナルモ我ハ既
ニ是後ノ提議ヲ爲シ最早讓歩
スヘキ余地ナキニ及ヘルニ更ニ之ヲ繼續
スルコトハ却テ相手国ノ感情ヲ害ス
ル上慮アル一キヲ慮リ又本邦民間
輿論者多シテ前途見込ナキ交渉ノ
爲メ永シ不安ノ伏線ニアルニシテ不
甚又不得策ナレキヲ考ヘ結局我

政府ヨリ進テ提議ニ至ル按例ナルカ
故ニ我ニ於テ之ヲ断念シ撤回ス
ルコト内外共ニ穩當ナリト信ス其旨
申進メタル義ニ外ナラス其辺ノ關係
ハ本邦ニ関スル從來ノ拙信ニ於テ
及禮詳記スル如ク有之候共今
日ノ少照會ニ接シ爲念更ニ録後
ニ申進候尤モ米國政府ニ於テ今
後船隻造船等ノ事ニ関シ改メテ
何カノ申出アル節ハ友誼最モ敦

通信

厚ナル米國ニ對シテ十分ノ誠意ヲ以
テ可罷船ノ拂還ヲ採ルル各々モ人
アハサルハ申ス迄モ無之此義由合邊
相取合)

右棉ノ次弟ニ有之候内本條交渉
ハ本月十四日付裁船弟ニ在リテ回
答ノ通り此際一應撤回相成候様
致度此際乃回答候也

送
信
省

電信課長

大臣 次官 吉田

二月六日

華府案 本年三月廿六日

本野外務大臣

佐藤大使

政務

第五三六號

通商

貴電第一四三九號(前) 閣下萬一美國政府、於

人事

船舶ノ求ムルニ急ミシテ 船齡、制限及造船材

會計

料ノ契約済中ヨリ 供給スル條件ヲ撤回

文書

尚其他ノ相當ノ讓歩ヲナシ、於テハ行掛

參政官

上我、於此處諾ミカルヲ得ル義ト思フ

副參政官

ロシアルニ貴電後段、均ク此際至

米國側、讓歩如何、均ク此際至

大正八年二月拾一日 記錄第二部發電

47

本件交渉ヲ打切スルヤ、御趣意ニ毛解セ
ハハ所存何レ止セキヤ 將又後有、御趣
意ナクモ、貴電御内示以外、如何モ理由
アル致事ナシヤ 本使應對上、心得違、折込
御回復了也

秘

華府港
本府有船於其六年五月廿九日

本野外務大臣 佐藤 女使

カ五三五輝

米國より和蘭ニ食料ヲ供給スル對價トシテ
 和蘭船舶約五十萬噸ヲ米國ニ離直セシ
 ムル 且伊兩國ニ南進涉レ由リ其成立ヲ
 見ルニ 是レ十有八情報過般來新聞
 傳ハシ居ル所 備向為 說明ニ徹シ 右情
 報ハ 本件事實ニ由リ 因及涉成去 曠
 若和蘭船舶ニ多ク 南米南洋方面ヨリ

大正八年二月拾壹日記録第二部接受

物資輸送ニ使用セラルト云フ

米國ヨリ

附13351番

附屬書類添付

大正六年三月四日接

通第二課

山崎

遞信省

十二月四日

中村通商局長殿 若 官管船局長

別紙覽書茲許及以送付候

大正八年七月

通第二課 接

3-1074

0390

覽書

逕信省

目下時局ノ影響ヲ度ケ船舶押底ニ
 若メル際トテ船舶ニ寸時タリトモ休止スルモ
 ノナク其動靜ハ日々ニ變化する實況ニア
 リ今又既ニ米國ニ對スル準備ヲ解キ留
 目米眼ニ係ル露兵輸送ニ關スル件並ニ將
 米起ルニトアルハキ歐洲聯合興國援助方ニ

開スル件等ニ對應スル準備中ニアリ
サレハ今日ニ及ヒ此上米國ニ對シ併セテ
船舶ヲ供與スルノ余裕ナキニト、了知ア
リタレ

電信省付録印影

電信課長 査

大臣

次官

政務

通商

人事

會計

文書

參政官

副參政官

三八。 (晴) 奉存為 大正八年十二月 七日 旨 旨 旨 の せ

本野外務大臣

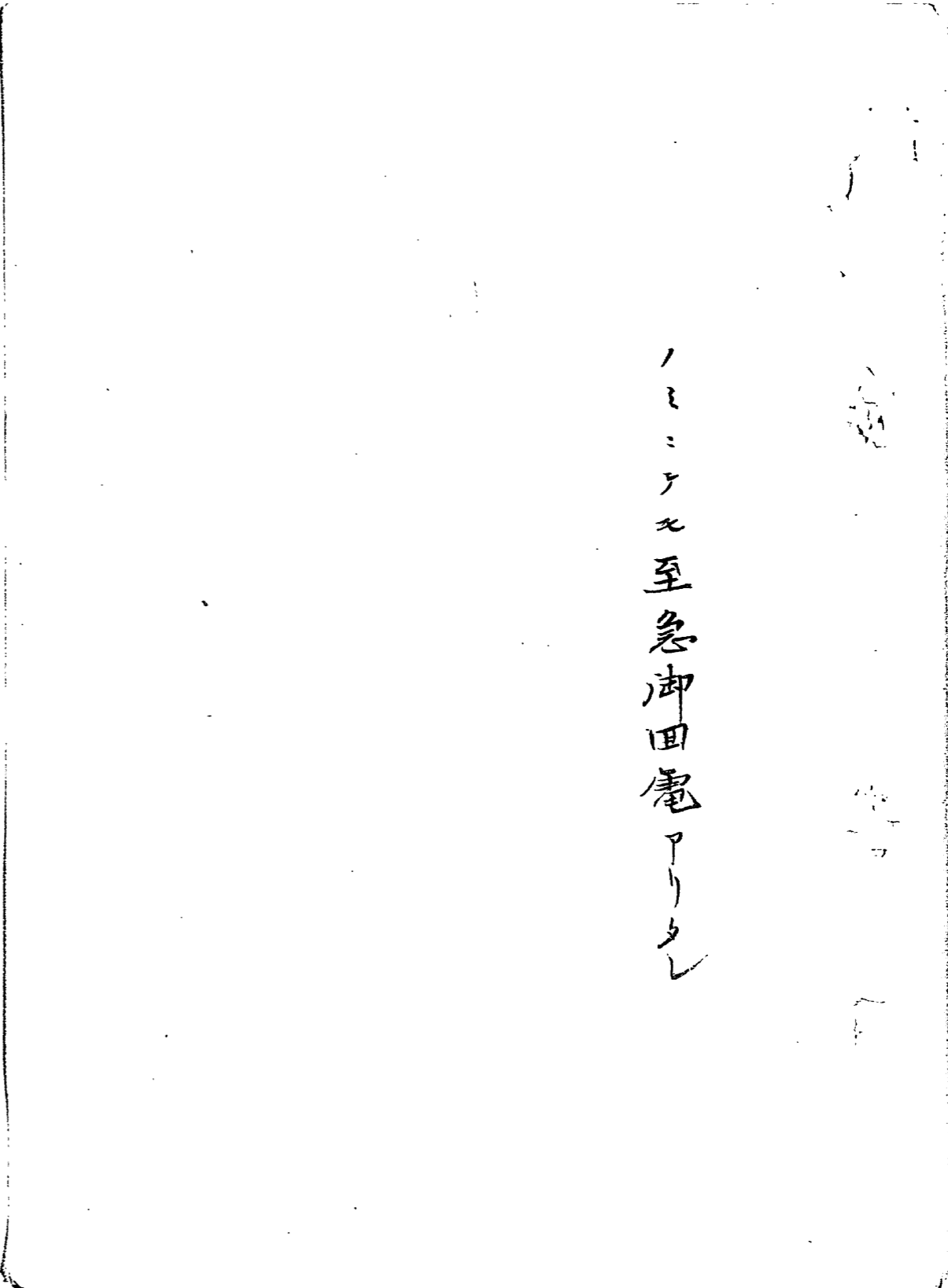
佐藤大使

第五四。 詳

六日付公文ヲ以テ米國當局者ヨリ目下交渉
中ノ鉄材船舶交換問題ガ到底解決ノ見込立
キ難キニ於テハ直接日本造船家ト或商談ヲ
開始スル積リナル旨来リタルガ右ハ一方何ト
カ問題ノ解決ヲ付クタキ底意アルト共ニ他方
日本ノ造船家ト直接契約シ一定ノ鉄材ヲ輸出
大正八年十二月拾六日 記録第二一部接受

48

ミテ造船ヲ請負ハレノ莫際日本政府ヲレテ右
契約ヲ承認セシメントノ意向ヲモ示スモノ
ニテ既ニ陸電第三六五號ニ言及せん通り
米國當局者ト日本造船家トノ間ニハ以
種ノ聯絡疾ニ相通ジ居ん次第ニ付右ノ如
ク契約ニ対スル敎政府ノ態度如何ハ貴電
第四三九號ノ御訓令実行上多大ノ影響
アルハキニ依リ以種ノ契約ハ總テ承認セラ
ルハ御意向ナリヤ或ハ如何ナル條件ヲ
具備セバ承認セラルハキヤ大体ノ御方針



ノミニテ至急御田電アリトシ

3-1074

0394



121

52110

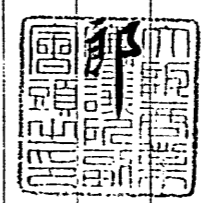
大正六年三月七日 接獲 通第二課

發第五〇〇一號

大正六年十二月六日

大阪商業會議所

副會頭 稻畑勝彦



外務省通商局長 中村 魏 殿

拜啓者、所屬之調査、必要之
輸出特許、其地之國一切、
前々、特許手續、原支會中送
付、此後、依此、申上、

大正八年二月十七日

通第二課

大阪商業會議所

大正八年三月七日

0395

3-1074

文書課長

大正六年五月八日 接受 83

大正六年五月八日 起草

別紙

機密

機密 第二〇八二號

主任

主管 通商局長

本野大臣

田邊信大臣宛

急

大正八年一月拾壹日 記録第二部 接受

米國鉄材禁輸交渉ニ関スル件

本件ニ関シ今般在米佐藤大使ヨリ

別紙寫ノ通リ請訓ノ次第有之候ニ付

外務省

委細右ニ就キ御了知御詮議ノ上

結果何分義至急御回示相成度

此段申進候也

在米大使来電第五四〇号パラフレーズ

ノ分寫添付

本署着 大正八年十二月 七日

本野外務大臣

左米

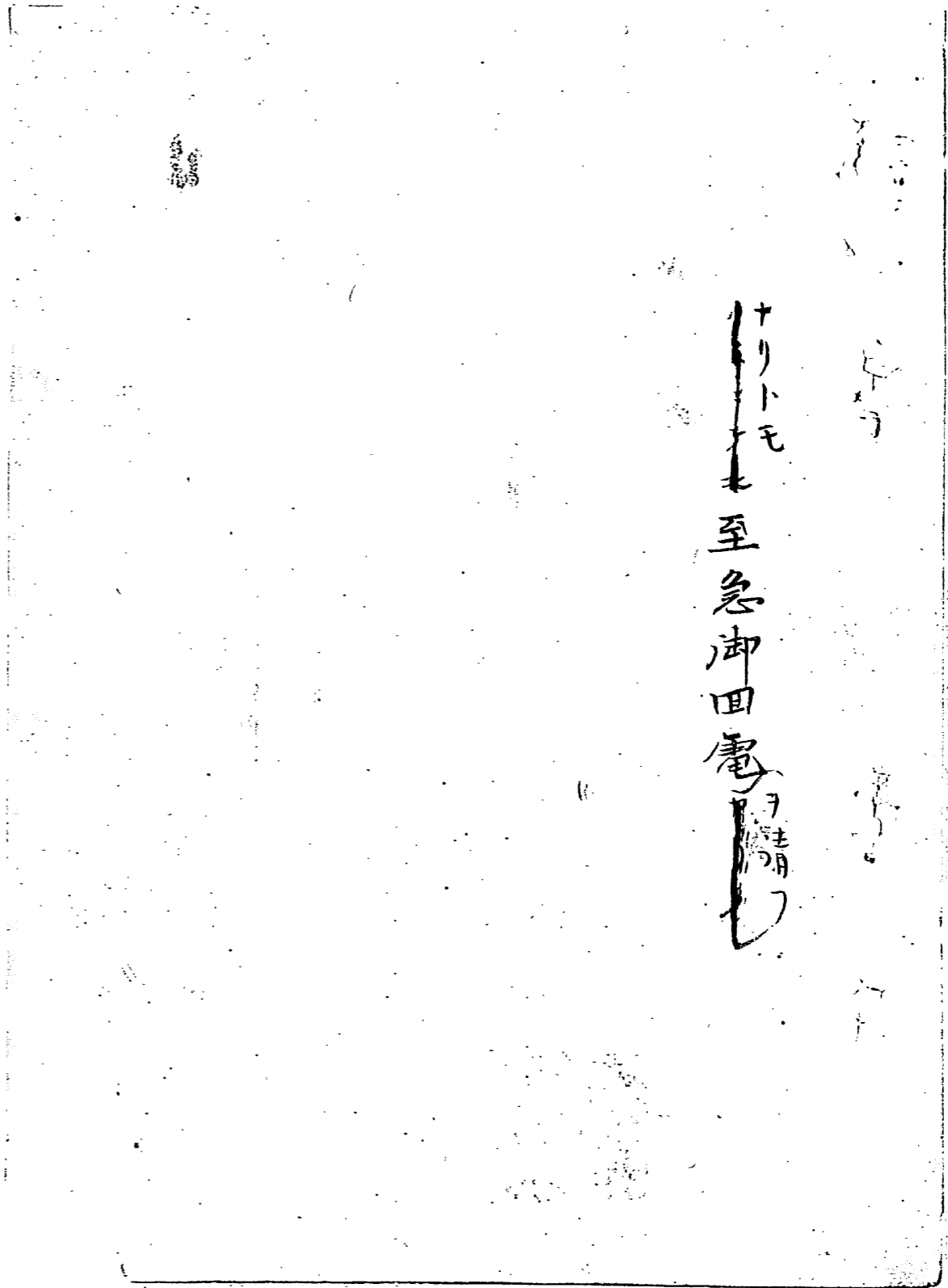
佐藤大使

第五四〇號

米國當局者ヨリ目下交渉
中ノ鉄材船舶交換問題ガ到底解決ノ見込立
キ難キニ於テ直接日本造船家ト取商談
開始スル積リナル旨来リタルガ右ハ一方何ト
カ問題ノ解決ヲ付クタキ底意アルト共ニ他方
日本造船家ト直接契約シ一定ノ鉄材ヲ輸出
スル事

大正八年七月拾壹日記録第二部接受

ミテ造船ヲ請負ハシメ其際日本政府ヲレテ右
契約ヲ承認セシメントノ意向ヲ示スモノ
ニテ既ニ米國當局者ト直接交渉セシメ
米國當局者ト直接造船家トノ間ニハ
種ノ聯絡ヲ相通シ居ル次第ニ付右ノ如
ク契約ニ對スル敎政府ノ態度如何ハ貴電
中ニ示シテ御訓令実行上多大ノ影響
アルハキニ依リ以種ノ契約ハ總テ承認セラ
ルベシ御意向ナリヤ或ハ如何ナル條件ヲ
具備セバ承認セラルハキヤ大体ノ御方針



ナリトモ
至急御田電

3-1074

0398

文書課長

大正六年三月十三日接受

34



大正六年三月十三日起草
同一年三月十日附

別紙

送第一〇四號

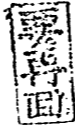
大正六年三月十四日發送
主任

通商局長
主管

中村通商局長

大阪商會議所
副会頭 稻畑勝太郎 宛

米及鉄材輸出特許令



大正八年七月十七日 記録第二部接受

外務省

本件ニ関シ本月六日附發第500一
号ヲ以テ申請越ノ越了取依了本
件ニ関スル米及鉄材八日二日附刻
令字第ニ及申送付小尚鉄材ノ
輸出特許申請書式ニ九月十三日附
廻合送付了七六七号ヲ以テ及送付課小
号右ニテ申了悉了本及号段及回答
也

別紙米及鉄材輸出特許令

追々其ノ外ニ必要ノモノ有之ルハ
当方週報書令ノ付付為テ又ハ
友報若クハ通商公報所載ノ關係
記ノ事ヲ指^摘入^示上^付申^出ス
交^付下^付採^取也

外務省

内2文
下記の文字を添付する

- 1. 七月九日^禁の^禁 (佐藤大使兼任七日^公の^公 = 20^日)
- 2. 八月一日、鉄道省出物^出 = 関^関の^の大^大統^統令^令
(大使八月一日^公の^公 = 七^三号^号)
- 3. 出物^出の^の申請^申書^書式^式 (大使八月一日^公の^公 = 九^九号^号 一^一号^号)
及^及其^其の^の説明^明書^書 (八月十日^公の^公 = 七^七号^号 七^七号^号 七^七号^号)
送^送付^付ス^スニ^ニ付^付テ^テ送^送ル^ル者^者ナ^ナリ
- 4. 八月二十七日^禁の^禁 (所謂^所の^の一^一号^号表^表及^及二^二号^号表^表品^品目^目表^表)
及^及大^大統^統令^令の^の説明^明書^書 (大使八月二十七日^公の^公 = 一^一号^号 二^二号^号)

Y. 出物^出の^の申請^申書^書式^式 (日)

(鉄^鉄 = 包^包接^接 関^関係^係の^の元^元 2. 3 (form A3) + 1)

右^右 最近^最の^の Tin Plate^{Plate}, 出物^出の^の規則^{規則}

Copy

from the Committee on Public Information

Immediate release

August 2-72.

The President today gave additional instructions to the Secretary of Commerce for the guidance of the Division of Export Licenses in future shipments of steel and iron products and explosives. The new rules governing steel and iron shipments, which supersede all previous regulations, are as follows:

First:- That all shipments to those nations associated with the United States in the war are, until further instructions, to be licensed freely, without reservation, and without restriction, except iron and steel plates, pig iron, iron and steel scrap, and steel billets, for which licenses shall be granted only in case said articles are destined for actual war purposes or will directly contribute thereto.

Second:- Licenses which may be properly issued, will be granted for shipments of all iron and steel plates and structural shapes, and other articles properly included under these general headings, under the following conditions only:

(1) The application for such license must be received by the Department of Commerce, Division of Export Licenses, Washington, D.C., on or before August 10, 1917.

(2) Such articles shall be completely made up and manufactured on or before August 10, 1917.

(3) Such license shall be valid, and shall indicate that it is valid, only in case such shipments are covered by railroad or ocean bill-of-lading dated on or before August 15, 1917.